「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究報告書

平成 23 年 3 月

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク

はじめに

カタカナで書く「ヒロシマ」それは被爆地である広島を指します。近年ヒロシマでの重要課題のひとつとして「継承」という言葉がしばしば使われています。広島という地域の教育が大切にしなければならないことの中に、「いかにヒロシマの心を継承していくのか」ということが含まれていることの表れと捉えることができます。

当団体では持続発展教育（ESD: Education for Sustainable Development）を基調としたプログラムを展開しています。その中でも、特にこの「継承」という概念を取扱ったプログラムを広島に根付いた教育 NPO として実践したいと考えました。そこで、広島を訪れた人・住んでいる人に対して「そもそも平和とは何？」ということを考えていく「ピースクリエイターになろう（※参考資料参章）」というワークショップを開発・実施してきました。本研究の実施にあたり、関係して頂いた個人・団体のみなさんは私たちのこのような動きに対して賛同して頂き、一緒に広島での「平和に関する参加型の学びの場づくり」の振興に対して力を貸して下さった方々です。こうした人びとが集まりそこで知恵を出し合う場を作ること自体が平和につながる第一歩なのだと実感しています。

私たちは、地域の人材が参加型の学びの場をつくることのできるファシリテーターとなり、様々な教育の場で参加型の学びを作っていくことは ESD の中でも大切なポイントだと考えています。広島という地域で育った人材がますます能力を高め、様々な場面で活躍することを期待しています。

特定非営利活動法人これからの学びネットワーク

目次

１．地域の課題把握と本研究の目的　7

１．広島における平和教育の概要と課題　8

２．本研究の目的と特徴　9

２．具体的な解決策　11

１．本研究の全体像　12

２．計画の詳細　13

３．実施内容　15

３－１．キックオフミーティングの内容　18

３－２．つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座の内容　24

・第１回

・第２回

・第３回

・第４回

・指導実習

・まとめ会

３－３．クロージングミーティングの内容　32

３－４．アドバイザー委員へのヒアリング内容　36

３．本研究の効果と分析　51

１．総評　52

２．社会教育に対する意識調査集計結果　53

３．ふりかえりシート集計結果　　57

４．市民参画アンケート集計結果　74

今後の展望　77

おわりに　79

参考資料　80

地域の課題把握と本研究の目的

１．広島における平和教育の概要と課題

2005 年から始まった国連持続発展教育（ESD=Education for Sustainable Development）の 10 年に基づき、各地で ESD のための仕組みづくり、指導者養成などの取り組みが行われています。ESD は環境教育、開発教育、人権教育、平和教育といった社会教育の分野で行われてきた様々な教育の要素を包括した概念であり、「自分で感じ、考える力」、「多様な価値観を認め、尊重する力」、「自分が望む社会を思い描く力」といった 21 世紀の社会でより必要とされる能力を育むことを目的としています。広島においても関係する NPO/NGO が中心となって、ESD に関する勉強会を定期的に開催していました。しかしながら、具体的なプロジェクトが挙がってこなかったこともあり、各団体との意見交換が一順したところで勉強会は終了した経緯があります。

現在、ESD を視野にいれた社会教育の現場で全国的に課題として、ESD を推進する上で重要な「参加体験型の学びの場」を提供できるファシリテーターが不足していること、およびファシリテーターやその他の関係者をコーディネートする機能が脆弱であることが挙げられています。

世界で初めて被爆地となった広島では、行政、NGO、学校など様々な主体が平和教育・人権教育を推進しています。年間 40 万人以上の観光客が訪れる広島平和記念資料館では見学、語り部やガイドによる情報の伝達、映画鑑賞、国際 NGO による異文化理解のための講演会などが行われてきました。しかしながら、これらの活動は主に「見る」「聞く」といった受動的な学習体系で、ESD を進める上で重要な「話す（対話する）」「共有する」「創造する」といった能動的な学習体系が仕組みとして機能していません。この課題を解決するために、当団体では参加体験型プログラム「ピースクリエイターになろう（※参考資料参照）」というプログラムを開発・実施し、従来型の平和教育・人権教育に ESD の概念を導入することを試みています。また、広島平和記念資料館では館内や広島平和記念公園内をガイドするピースボランティアの養成などを通じて対人的な平和教育を行っていますが、さらに学校への出張講座ワークショップ等を通じて能動的な学習体系を構築することを模索しています。

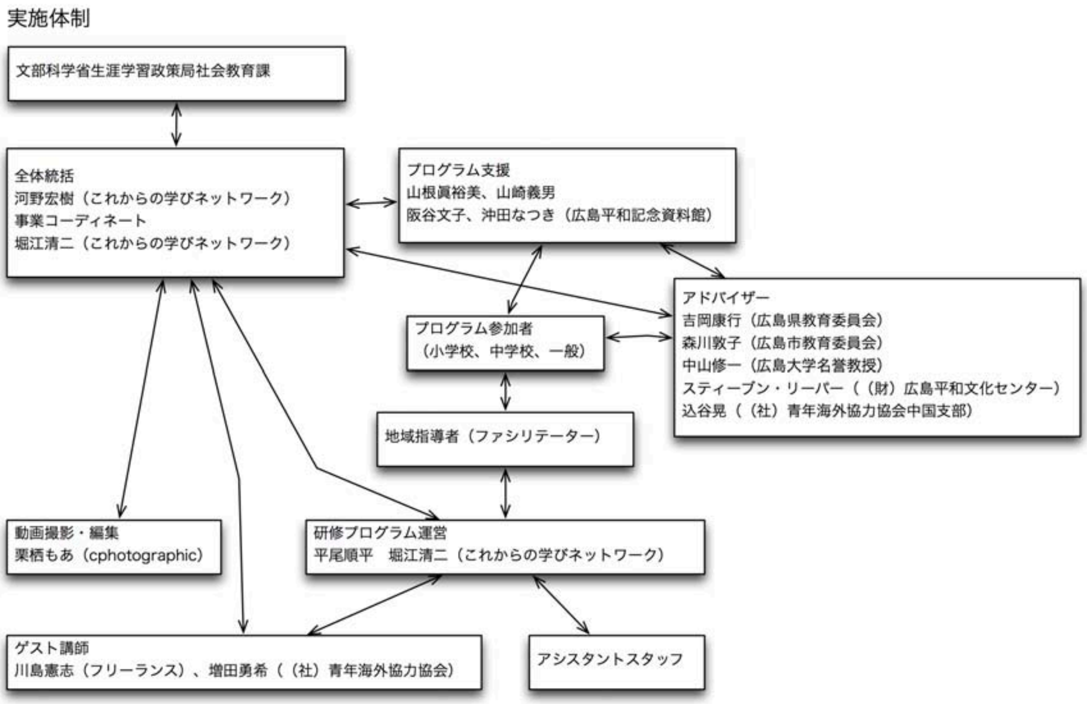
２．本研究の目的と特徴

本研究では、参加体験型の学びやワークショップのノウハウを持っている当団体が広島平和記念資料館と協働して、地域住民を対象に平和を創造するための参加体験型の学びを提供することのできるファシリテーターを養成します。さらに、教育委員会や青年海外協力協会といった他 NGO と協働関係を築き、指導者養成の質の向上や養成されたファシリテーターが活動できる場づくりとそのコーディネーションを行なうことを目標とします。

具体的には、当団体は他団体と協力しながらファシリテーション研修を実施し、育ったファシリテーターのコーディネートを行いました。広島平和記念資料館や教育委員会はその知名度とネットワークを活かして出張講座を中心とした学習者とのマッチングを行いました。実際の実施体制を図 1 に示しました。

これらの活動を通じて、NPO/NGO、社会教育施設、教育委員会などが協働で、平和教育・人権教育の分野におけるファシリテーター型の地域支援人材を養成・コーディネートし、出張講座やスタディツアーといった様々な社会教育の場において活躍できるモデルを構築することを目的とします。

図 1 ）実施体制



具体的な解決策

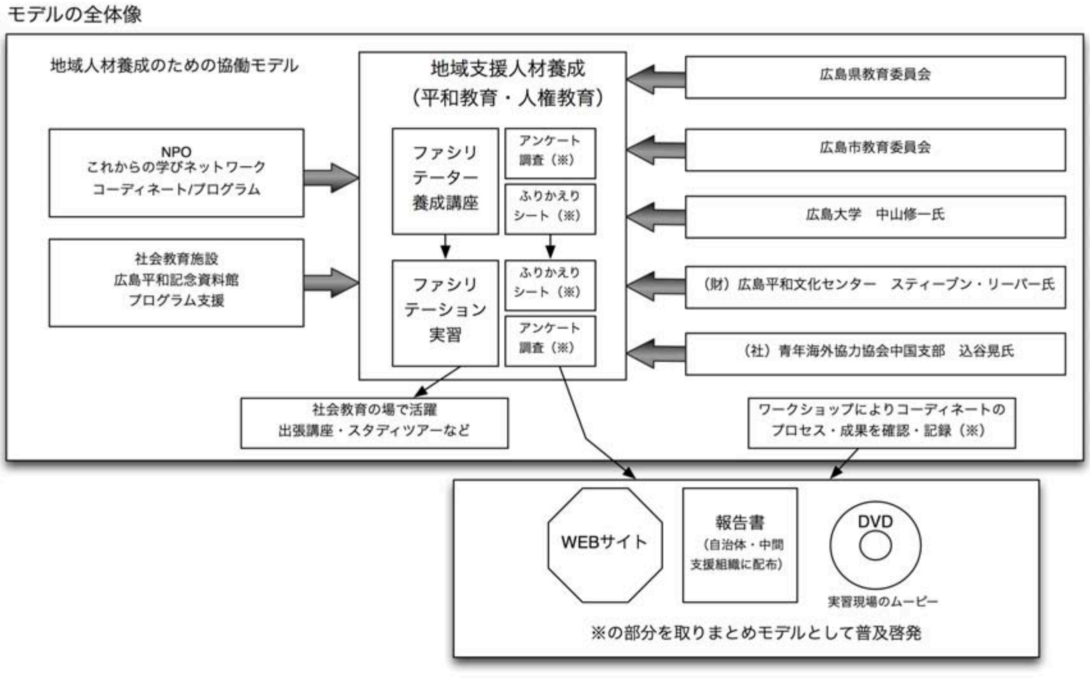
１．本研究の全体像

これまでに取り上げた課題を解決するためのひとつの案として、本研究を実証的に実施しました。モデルの全体像としては図２で示した枠組みで実施しました。具体的には、平和教育・人権教育に関連した参加体験型の学びの場を回すことのできる地域の人材（ファシリテーター）を座学やワークショップで養成し、実際の教育現場で OJT（On the Job Training）をしていくという構成となっています。

またこの地域支援人材養成をテーマに、多様な主体（社会教育施設、教育委員会、NPO/NGO、有識者）によるミーティング（検討委員会）を行い、地域人材のコーディネーションやプログラム開発に関して新たな知見を得ていく手法を取りました。これらのミーティングと並行して地域人材養成（ファシリテーター養成）を行なうことにより、議論すべき具体的な素材が提供され、ミーティングが有効に機能することをねらっています。

地域支援人材養成では適宜アンケート調査やふりかえりシートを利用した定量的・定性的な効果測定を行い評価した後に、本報告書および WEB サイトに掲載し広く普及啓発しました。なお、ファシリテーション実習の様子は動画記録・DVD 化し情報の共有および研修の題材として活用しました。

図２）モデルの全体像



２．計画の詳細

○ファシリテーター型の地域支援人材を養成するモデル作成

・プロジェクト期間内にファシリテーションの基礎を実践的に学ぶための講座を４回実施しました。これらの講座は基本的にワークショップ形式で行いました。実際の教育プログラムを体験しながら実践的に学び、補講として 2 日間のファシリテーションに関するトレーニングと理論の確認を組み合わせる形で実施しました。教育プログラムの体験では、人種を超えた相互理解、異文化への共感・理解をテーマとした人権教育プログラムも導入し、平和をテーマとした幅広い ESD 的な学びの理解を促しました。(具体的なプログラム内容「ピースクリエイターになろう」については、参考資料参照。)

・ワークショップ形式の講座を終えた後、スタディツアーや学校への出張講座での実際の社会教育の現場において４回実習を行いました。指導者との打ち合わせをしながら実習時における指導者のスキルによって指導の負荷を決定しました。４回の実習のうち 3 回はパートタイム的な関わりでしたが、最終回は全てを一人でこなすファシリテーターも現れました。座学だけの指導者養成講座と異なり、実際の現場における指導を体験しフィードバックを得ることにより、実践的な指導者を養成することをねらいとしています。

・指導者へのアンケートはふりかえりシート形式とし、プロジェクトの開始から終了までの指導者個人の学びがどのようなプロセスを経て高まったかを主観的に記録できるものとしました。（ふりかえりシートは参考資料参照。)

・指導者に対してプロジェクトの最初、中間、および最後に「社会教育に対する意識調査」を行い、指導者としての意識の変化、およびファシリテーション技術の向上度を５段階評価方式で測定しました。(社会教育に対する意識調査は参考資料参照。)

・指導者に対して「市民参画に関するアンケート」を行い、指導者としてどのように活動に参画しているのかを測定しました。(市民参画に関するアンケートは参考資料参照。)

・実際のファシリテーター養成講座、「ふりかえりシート」、および「社会教育に対する意識調査」などの結果を元に WEB サイトおよび報告書を作成し、本人材養成モデルを他地域でも応用できるようまとめました。

・ワークショップなど参加体験型の手法の文字による説明には限界があるため、実際の実習風景を動画撮影・編集 DVD 化し報告書の副教材としました。

○NPO と社会教育施設の協働・人材コーディネートモデル作成

・NPO としてのこれからの学びネットワークは、ファシリテーター養成のソフトを提供しました。社会教育施設としての広島平和記念資料館は、プログラム運営のサポートや会場を提供し、それぞれの得意分野を出し合うことによる相乗効果をねらいました。

・キックオフミーティングおよびクロージングミーティングにワークショップ形式を導入し、現状での課題や達成したい点を相互に確認する手法を取りました。またワークショップに共同作業の要素を持たせることにより、チームビルディングの効果を持たせることもねらいもあります。

・キックオフミーティングおよびクロージングミーティングの結果を踏まえ、各関係主体に対して再度ヒアリングを行い、より具体的な意見を収集しました。

・ミーティングの成果物やヒアリングの記録において重要な事項をインタビュー形式で WEB サイトおよび報告書にまとめました。

○人権教育・平和教育・国際理解教育など複数分野の融合

・第３回ファシリテーター養成講座では、（社）青年海外協力協会が開発した地球生活体験学習を中心に人権教育・国際理解教育を扱いました。

・ファシリテーション実習（石内小学校）では、人権教育のマニュアルを基にワークショッププログラムを練り実施しました。

○成果物の普及啓発

・本プロジェクトの報告書を、直接普及啓発効果の高い各都道府県の NPO セクションおよび中間支援組織に送付しました。

・一般に広く普及するためにプロジェクトに関する写真・テキストを掲載した WEB サイトを制作しました。また、WEB サイトでは報告書類の PDF ダウンロードができるようにしました。

３．実施内容

下記のようなスケジュールでプロジェクトを進行しました。アドバイザー委員の方とは全体でのミーティング（キックオフ・クロージング）以外にも個別にヒアリングを行ない、このプロジェクトにおける意見や課題を丁寧に取り扱いました。その結果、当初予定していたよりも指導者に対する実習の数も増え（2 回→4 回）より充実した指導者養成となりました。

○企画再検討（7 月）

・これまでに作成した企画に対して再検討を行いました。

○キックオフミーティング（7 月 30 日）

・これからの学びネットワーク、広島平和記念資料館およびアドバイザー委員で構成し、プロジェクトの概要確認を行いました。

・ NPO と社会教育施設との協働･指導者養成で達成したい点および課題をワークショップ形式で整理しました。

○アドバイザー委員ヒアリング（8 月、2 月、3 月）

・指導者養成およびコーディネート手法に関してアドバイザーとの意見交換を個別に行いました。

○つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座１（9 月 4 日）

・オリエンテーション/アイスブレイク

・ファシリテーション体験/ファシリテーション概論

・アンケート実施（ふりかえりシート、社会教育に対する意識調査）

○つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座２（9 月 5 日）

・プログラム体験（平和教育：「ピースクリエイターになろう」）

・アンケート実施（ふりかえりシート）

○つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座３（10 月 2 日）

・プログラム体験（人権教育・国際理解教育：「地球生活体験学習」）

・アンケート実施（ふりかえりシート）

○つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座４（10 月 23 日 24 日）

・外部講師を招いての 2 日間のファシリテーショントレーニングを実施しました。

・アンケート実施（ふりかえりシート、市民参画に関するアンケート、社会教育に対する意識調査）

○中間ミーティング（9～12月）

・ファシリテーション実習の実施にあたって、これからの学びネットワーク、広島平記念資料館関係者、広島市教育委員会、その他関係者による打ち合わせを随時行いました。

○ファシリテーション実習1（11月15日）・実習2（11月24日）

・ファシリテーターとして実際の青少年を対象にワークショップ実施しました。

・ファシリテーター養成講座を受講したファシリテーターがサブファシリテーターとして実施しました。

○ファシリテーション実習3（12月4日）・実習4（12月8日）

・ファシリテーターとして実際の青少年を対象にワークショップ実施しました。

・ファシリテーター養成講座を受講したファシリテーターが主にメインファシリテーターとして実施しました。

○まとめワークショップ（1月10日）

・ふりかえりワークショップ（指導者自身の達成点、および改善点をワークショップ形式で意見を出し合い取りまとめました。）

・アンケート実施（ふりかえりノート、社会教育における意識調査）

○クロージングミーティング（1月12日）

・これからの学びネットワーク、広島平和記念資料館およびアドバイザー委員で構成し、プロジェクトの成果報告を行いました。

・ NPOと社会教育施設との協働・指導者養成における、達成した点および課題をワークショップ形式で整理しました。

○WEBサイト・報告書（DVD）作成・配布（1月～3月）

・人材養成およびコーディネートのプロセス・成果をまとめWEBサイト（これからの学びネットワーク WEB サイトに併設)、本報告書、およびファシリテーション実習をまとめた DVD を作成しました。

・本報告書は各都道府県の NPO 担当部署および中間支援組織へ配布しました。また、DVD に関しては肖像権の処理も関係するため要望があった場合に個別対応しました。

表 1）研究日程

平成 22 年度	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月
企画再検討	○								
キックオフ ミーティング	○								
アドバイザー委員 ヒアリング		○	○						
ファシリテーター 養成講座			第1回 第2回	第3回 第4回					
中間ミーティング			○	○	○	○			
ファシリ テーション実習					第1回 第2回	第3回 第4回			
まとめ ワークショップ							○		
クロージング ミーティング							○		
アドバイザー委員 ヒアリング								○	○
WEB サイト 報告書作成							○	○	○

3－1．キックオフミーティングの内容

・日時：平成 22 年 7 月 30 日　14:00～17:00

・場所：広島国際会議場　会議運営室

・参加者：山根眞裕美、山崎義男、阪谷文子、沖田なつき（広島平和記念資料館）吉岡康行（広島県教育委員会)、森川敦子 (広島市教育委員会)、中山修一 (広島大学名誉教授)、込谷晃 ((社) 青年海外協力協会)、スティーブン・リーパー（(財）広島平和文化センター)、堀江清二、河野宏樹、平尾順平（これからの学びネットワーク）

・ミーティングの目標：

　・参加者が本プロジェクトの概要を理解する。

　・参加者の各々の考えに、お互い一定の理解を得る。

・プロジェクトの目標：

　・参加者間で共通言語をつくる。

　・地域の教育力を強化するための案が見える。

・内容

　・オリエンテーション／事業の概要と目的の共有化

　　ESD と体験学習、地域コンソーシアム、ファシリテーター養成

　・ワークショップ討議（2 グループ）

　　テーマ１：今みなさんが、それぞれの立場の中で、社会教育およびその中での協働において大切（課題）だと考えていることは何ですか？

　　テーマ２：「これからの地域の人材養成（ファシリテーター）はどのように進めていけばよいと思いますか？」

　・全体討議

・結果の要約

社会教育分野・学校教育分野・NPO/NGO が同じテーマのもと（今回は地域人材養成、平和教育・人権教育）話し合う場がこれまであまりなかったため、今回のような場が非常に貴重だという総意でした。また地域の人材養成において、個別で単発の養成はなされているますが、組織横断的に人材を養成し活用していく枠組みはなく、今後の課題という結論になりました。

○**キックオフミーティング　ふりかえりシートまとめ**

１）今回のワークショップを通じて、社会教育の中で大切にしたいと感じた項目は何ですか？理由も併せてご記入下さい。

・自分で考え行動する人を育成すること
・自分の言動が周囲や社会に与える影響にも配慮できる人を育成すること。
（理由）主体性と協調性のバランスが大事だと考えるから。
・様々な機関がお互いの活動の目的、内容を理解し、連携、協力をしていくこと。
・ワークショップの中で広島県教育委員会の担当者の方の思いと、学校現場の先生方の思いの一端を教えて頂いたように思います。実際に教育に携わっている現場の人の声を聞かなければ「何が求められているのか」は分からないと改めて感じました。平和記念資料館で啓発の業務に長く携わっていると「これはこうあるべき」「これが一番良い方法」と勝手に思い込んでしまいがちなところがあると思います。
・机上で考える教育ではなく、体験を伴う教育を子どもだけではなく青少年に対しても行っていく必要性が年々高まっていると感じました。
・今回計画されている参加体験型のファシリテーター養成講座のような研修によって、様々な年齢の指導者を養成していくことが、社会教育にとって必要であると考えます。
・「主体性をいかに育むか」ということ。生涯学習という観点から、自ら課題を見付け、自ら行動する力を育成することは大切だと考えます。そのために、子どもたちの主体性をいかに育むかという視点を大切にしていくことが必要だと感じました。
・社会教育では、「試行錯誤し、時間をかけながらしっかりと力をつけていく」といった取組を大切にすべきではないかと思います。学校教育では、特に近年、限られた時間の中で最大の成果をあげるという効率性が求められており、残念ながら、詰め込み感、やらされる感が大きい気がします。
・官民の壁なく、ある程度共通の目的・目標をもつ機関・組織・団体が、それぞれの直面する課題を気軽に話し合う場を恒常的・定期的に開く場（集い）の設定をしたいです。会合は、3～4カ月に１回のペースで開かれ、毎回、ある団体から話題提供をしてもらい、それをめぐり意見交換を行います。特に結論を出す必要はないと考えます。こうした場（集い）の運営に、ＮＰＯが当たるのが相応しいと思います。注意すべきは、こうした場（集い）の名称に、○○推進協議会とか、かたい名前は付けず、カタカナ文字で、プラットフォーム、フォーラム、コンソーシアムなど柔らかいものを選びたいです。
（理由）経済界で異業種間の意見交換の場（異業種交流会など）が、新しいビジネスモデルを

生み出す場になることは、これまでの各地の経験で実証されています。
・ESD の中で言われている３つの力「価値観」「能力」「学びの方法」を取り入れた教育をしていくことの大切さを感じました。グローバル化された今の現状を考えた時、「平和教育」は広島だけでなく、日本人ひとりひとりが、世界的視野で「自分で考え動ける」教育をしていく必要があるのかなと思います。それには上記３つの力は重要かつ大切な視点ではないでしょうか。それを進めていく上で重要なキーワードは「人」だと思います。手法で言えば「ファシリテーション」にかかると思うので、人材の育成、人の輪をつなげることが大切だと思います。

２）社会教育における課題の中で重要だと感じられる項目は何ですか？その対策案もあれば併せてご記入下さい。

・何事にも無関心な人へのアプローチ。
・意義のある教育を受けた指導者が少ないこと。(特に若年層)
（対策案）今回のようなファシリテーター養成講座や今回に準じる養成講座の広報をしっかりと行う。また，大学や専門学校等と協働で講座を実施する。
・指導者が、実地訓練する場、また、実際に指導する場が少ないこと。
（対策案）私立小中学校と協働し、プログラム開発を行ったり、指導の場としたりする。
・学校教育との連携が必要だと思います。青少年を対象とするならば、まず対極？にある「学校教育」と比較しながら、「社会教育」の意義や独自性を明確にしていくことが重要だと考えます。「学校教育」と同じことをしても意味がありませんし、かけ離れすぎても効果的でないと思います。それぞれの教育の意義や役割を共有し、連携を図りながらより効果的な方法で事業を進めていく必要があると思います。
・今回のプロジェクトでいえば、まず、「社会教育で育てるべき子どもたちの力」を明確にし、そのためのファシリテーターの要件を整理する必要があると思います。今年度の研修は回数も限られているため、短期的に養成する力の部分と、長・中期的に養成する力をしっかりと分けて計画を立てるようにしたらよいと思います。
・社会教育の大きな目標は、時代を反映する諸課題についての意識啓発と、同時に課題解決に向けた社会参画の広がりとスピードを速めることと考えます。社会啓発は、従来からのテーマであり、多くの手法が開発されてきました。これからの社会参画には、行動を起こすエネルギーを一人でも多くの人に培ってもらうことが必要になります。
（対策案）社会参画の行動に結びつけるエネルギー（確信、信念）の習得の仕方の指導者（ファシリテーター）の養成と、養成講座（プログラム）の開発が必要。
・地域社会という大きな輪で社会教育を考えた場合、自治体、学校、NGO 等関心のある団体及

び個人が積極的に関っていける仕組みを作ることが重要だと思いました。
・地域や社会にはいろいろな人材がまだ眠っているのではないでしょうか。教育を考えた時、今までのように学校の先生のみにそれを頼っていることから地域が協力してやっていく方向へ向かっていく必要性も感じました。
・すでにコンソーシアム形成による社会教育の事例もあるので、広島に合った形での進め方を模索していくことも将来の課題と感じました。
・いかに地域の人の興味やニーズを引き出して、イベントや研修会を行なっていくかが課題ではないでしょうか。

３）協働（コンソーシアム）という概念はどのようにしたら円滑に機能すると考えられますか？理由も併せてご記入下さい。

・実際に集まって協議すること。
（理由）人と人とのつながりが基本だと思うから。
・目標・問題意識を共有していくこと。
・今日のワークショップの中で「県でも市でもトップダウンでなければ何も動かない」という話がありましたが、トップでなくても、各組織のキーとなる人物を押さえることは重要だと思います。
・行政とＮＰＯの協働などが顕著な例であると考えます。行政側が、ＮＰＯを単なる経費削減の団体として考えたり、知らず知らずのうちにそういった対応になる場合もあり、対等な立場で論議できない雰囲気を作ることは好ましくないと考えます。
・どのような協働であっても、お互いが対等に自由に意見を交換できる関係を保ちながら事業等を進めていくことが必要だと考えます。
・それぞれの立場や役割、目標を理解し合い、補完し合おうとすることによって、円滑に機能すると思います。
・会合の定期性と検討課題の適時性、魅力性、運営への情熱などがカギになるものと考えます。
（理由）ある組織を動かすには、動かそうとする仲間の共有されたＭＶＰ（Mission：使命, Vision：展望, Passion：情熱）の充実がカギと考えるから。
・関係のある人たちが集まり、意見を出し合うことから始まるのではないでしょうか。それぞれの立場から意見や考えがあるともいます。どこかに歯抜けがあることが円滑にする上で支障をきたす原因になると思います。これを取り纏める人（または組織）が非常に重要、かつ、大変だとは思いますが。

４）これから地域の人材養成（ここではファシリテーター）はどのようにすすめていくとよいとお考えですか？

・養成した人材の活躍の場まで想定してプログラムを考えるとよいと考えます。
・ミーティングの中で「ファシリテーターといっても定義はいろいろ」とあったように、「結局何ができるようになるのか」ということが分かりづらい面がある気がするので、「この講座を受けることにより、どのようなことができるようになるのか、またはできるようになることを目標にしているのか」をはっきりさせた方がよいのではないかと思います。
・実現性は少ないかもしれませんが、どういった形でも良いので、「級」などを設けて、小学生からおとなまで自由に研修に参加し、ファシリテーターとまではいかなくても、「水の知識検定」「緑の知識検定」「海の知識検定」などのように指導者の基本知識から学び、最後には、成人をファシリテートできるような技能を身につけられるシステムを構築できたらいいと考えます。
・短期的に養成する力の部分と、長・中期的に養成する力をしっかりと分けて計画を立てるようにしたらよいと思います。差し当たって、今年度は、4 回程度の研修でしっかりと効果が見込まれる部分、例えば、ファシリテーターの役割や基本的な姿勢やスキルなどにターゲットを絞り人材養成を行っていくとよいと思います。それが、具体的には、どのような部分なのかについては、もう少しディスカッションができればよかったと思います。
・魅力的な養成講座の開発。
・官民の連携による養成講座の開発。多くの組織の団体による連携よりも、特定の官のニーズにこたえる養成講座の新しい提案ができれば望ましいと考えます。
・分野としては、教師のファシリテーター能力の向上に寄与する講座の提案がほしいです。
・受講者には、必ず受講修了証の発行を行うのが望ましいと考えます。
・NPO が主催した養成講座には、NPO による広島版のファシリテーター認定証の発行を考えるとよいと思います。その認定証には、どういう課題に関するファシリテーター技能を学んだかを明記する必要があります。
・今回の事業ではまず「ファシリテーション」能力向上のための研修成果の分析、実証が大切だと思います。今回は平和教育を実践していきたい人が対象だと思うので、その人たちをその後活用していく場所や機会を考えながら進めて行く必要があると思います。

５）その他感じたこと考えたこと、さらに深めて議論したいことがあればご記入ください。

・広島市教委の森川さんが言われた「教員がファシリテーション技術を身につける」という方向性は面白いと思います。学校教育で行う環境、人権などのテーマにも応用が効くのではないでしょうか。ただし、教員に余裕がなければ負担になるだけなので、よく考える必要があります。
・ワークショップの中で発言のあった「資料館の見学や、原爆についての学習はともするとトラウマになりかねない」という点にとても共感しました。その部分をフォローできるファシリテーター養成が可能なら、資料館としては大変ありがたいです。
・今回の集まりを机上だけの会議として終わらせず、会議外での交流や討論もできるような会を設定してほしいと思います。
・教育委員会において、この２年間は、「平和教育プログラムの策定」が重点課題となっており、平和教育の転換期ともいえる時期です。この機会を捉えて、平和教育に関する研究や事業がより深まることを願っています。私自身も、いろいろな方々との出会いを大切に、視野を広げながら、よりよい教育プログラムを策定できるよう努力していきたいと思います。協力できることは、させていただきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
・その他感じたこととして、この取り組みの先を考えた時に、「地域の人材」としての対象を広く考えた場合、さらに楽しくなるのではないかと思います。ピースクリエイターで学んだ生徒は自分の地元に戻ったらいいファシリテーターとして平和学習の担い手になるかもしれません。平和学習のみでなく人材を育てていく為のヒューマンリソースは地域のいたるところにあるような気がします。その人たちを掘り起こす仕組みとして、協働（コンソーシアム）を進めて行く仕組み作り等を話し合えればうれしいです。（協力隊経験者は多くの地域で起こしてもらうのを待っているかもしれないので。）今回参加させていただいたことで大変多くの事を勉強させてもらいました。ありがとうございました。

３－２．つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座の内容

指導者養成の方法として、「つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座」を実施しました。第 1 回から第 4 回は座学とワークショップでファシリテーションの基礎を学びました。その後、指導実習を小学生、中学生、および大学生対象に計 4 回行ないました。最終的に、まとめ会を開催し研修の成果を参加者の中で共有し課題の整理を行ないました。以下にその詳細を記載します。実習も含め具体的な実施プログラムは、人権教育・平和教育・国際理解教育といった分野のものからエッセンスを抽出し分野横断的なものとして再構成しました。

○募集状況

参加者母数：30 名（男 10 名、女 20 名）

募集方法：大学生・NPO/NGO 関係者へのチラシの配布・DM、各教育委員会への DM

条件：18 歳以上の方（経験は特に問わない）

参加者年代：

10 代	2 名
20 代	11 名
30 代	10 名
40 代	6 名
50 代	1 名

参加者属性：

大学生	8 名
NPO/NGO 関係者	10 名
会社員	5 名
教員	3 名
行政職員	4 名

※30 代を中心に、経験の少ない大学生から NPO/NGO 活動で実際に参加型の場づくりをしている方まで幅広い方が集まりました。

※通し参加をしなくてもよい研修構成としました。

※今回参加された方を中心に、平成 23 年度以降も継続して社会教育現場で今回と同様の実習を重ねる予定です。

○つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座　第１回

・テーマ：参加型の場づくり・ファシリテーションって何？

・日時：平成 22 年 9 月 4 日（土）

・場所：広島平和記念資料館　会議室２

・参加人数：21 名

・講師　メイン：河野宏樹　　サブ：堀江清二、平尾順平（これからの学びネットワーク）

・研修目標（ねらい）：

　・なぜ参加型の場に関わるのか？自分の思いを整理する。

　・参加型の場づくりの基本的な流れを知る。

・注意点：参加者、実施者と最初の顔合わせになるため、全体の場に慣れるような流れとしました。参加型の場になれていない参加者も少数ながらいましたので、キャッチアップできるよう丁寧なレクチャー、進行に心がけました。

・スケジュール：

時間	内容
9:00	スタッフ集合
9:30	受付
10:00	開始／オリエンテーション
	目標の共有と規範、スケジュール確認
10:20	セッション１　チェックイン
	フォレストガンプ
	世論調査／フリップ共有
	今の気分、やっていること、この講座に望むこと
11:00	事前調査用紙記入
11:30	セッション２　ミニ講義
	ワークショップとファシリテーター
12:00	昼食
13:00	セッション３　ワークショップ体験
	あなたの根本思想って何？
	個人作業→グループ共有→全体共有
14:30	セッション４　ミニ講義
	参加型の場　基本的な流れ　拡散から収束まで
15:00	セッション５　クロージング
	感じたこと　学んだこと　シート記入
	グループ共有
	全体共有
	QA
	フリップふりかえり
16:30	終了

○つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座　第２回

・テーマ：ファシリテーションの実際　プログラム体験１（平和教育）

・日時：平成 22 年９月５日（日）

・場所：広島平和記念資料館　会議室２

・参加人数：24 名

・講師　メイン：河野宏樹　堀江清二　サブ：平尾順平（これからの学びネットワーク）

・研修目標（ねらい）：

　・平和教育で大切な要素を整理する。

　・平和ワークショップ（ピースクリエイターになろう）を体験する。

・注意点：具体的なプログラムを実際に体験するということが今回の主な目標となっていますが、平和学習に対する参加者間の認識のブレを最初に均すために、午前中のワークでお互いの考えを共有する時間を取りました。

・スケジュール

時間	内容
9:00	スタッフ集合
9:30	受付
10:00	開始／オリエンテーション
	目標の共有と規範、スケジュール確認
10:20	セッション１　ワークショップ体験
	あなたにとってのヒロシマの平和学習とは？
	広島の平和学習で必要な要素は何ですか？
	ワールドカフェ形式
11:30	昼食
12:30	セッション２　ピースクリエイターになろう
14:30	セッション3　ワークショップの構造
	ピースクリエイターになろうの意図開き
15:00	セッション4　クロージング
	感じたこと　学んだこと　シート記入
	グループ共有
	全体共有
	QA
	フリップふりかえり
16:30	終了

○つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座　第３回

・テーマ：ファシリテーションの実際　プログラム体験２（人権教育・国際理解教育）

・日時：平成 22 年 10 月 2 日（土）

・場所：広島平和記念資料館　会議室２

・参加人数：20 名

・講師：　メイン：河野宏樹　サブ：堀江清二　平尾順平（これからの学びネットワーク）

・ゲスト講師：増田勇希（(社）青年海外協力協会）

2004 年、大学在学中に長野県まだらお自然学校にて 1 ヶ月のインターンを経験。05 年日本国際博覧会(愛地球博)で、２ヶ月半勤務した後、環境教育を実施する個人事務所に所属し、07 年 1 月より青年海外協力隊・環境教育隊員として東欧ルーマニアに赴任。 09 年 1 月に帰国後は（社）青年海外協力協会にて開発教育に従事する。

・研修目標（ねらい）：

・ワークショップ（地球生活体験学習）を体験する。

・ワークショップ（地球生活体験学習）を実施する。

・注意点：第２回は実際のプログラムを体験するのみでしたが、今回はそれに加えて実施に自分たちでプログラムを回してみるという体験をメインにしました。また人権教育・国際理解教育をベースにした教材を用いることにより、幅広い分野のプログラムを体験することも視野に入れています。地球生活体験学習については巻末の参考資料参照。

・スケジュール

時間	内容
9:00	スタッフ集合
9:30	受付
10:00	開始／オリエンテーション
	目標の共有と規範、スケジュール確認
10:20	セッション1　ワークショップ体験
	地球生活体験
11:30	昼食
12:30	セッション2　ワークショップ実習
	地球生活体験のやりかたと構造
13:00	実習準備
14:00	実習
16:00	セッション5　クロージング
	感じたこと　学んだこと　シート記入
	グループ共有
	全体共有
	QA
	フリップふりかえり
16:30	終了

○つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座　第４回

・テーマ：ファシリテーション・協働促進のツボ

・日時：平成 22 年 10 月 23 日（土）24 日（日）

・場所：広島市青少年センター　研修室３

・参加人数：20 名

・講師　メイン：河野宏樹　サブ：堀江清二　平尾順平（これからの学びネットワーク）

・ゲスト講師：川島憲志（フリーランス）

1953 年福岡県筑豊生まれ。現在は，参画と協働をキーワードにまちづくり、市民活動，様々な教育分野等の場づくり、人づくりにかかわるフリーランスとして活動中。お仕事先からいただく肩書きは、プランナー、コーディネーター、ファシリテーターetc.

・研修目標（ねらい）：

　・協働の場のメカニズムを実感する。

　・協働の場のメカニズムの知識を仕入れる。

・注意点：これまでの研修で取扱った内容を理論的に整理することを重要視しました。何かを体験して終わるのではなく、体験したことにどのような意味があるのかということを解き明かす体験学習法のサイクルを大切にしています。当日の資料（ジョハリの窓・グループプロセス）に関しては巻末の参考資料参照。

・スケジュール

日程	時間	内容
10月23日	9:00	スタッフ集合
	9:30	受付
	10:00	開始／オリエンテーション
		目標の共有と規範、スケジュール確認
	10:30	セッション1　全体ワーク
		ファシリテーション（協働促進）のこれまで・これから！？
	12:15	昼食
	13:15	セッション2　実習
		バスは待ってくれない
	15:15	休憩
	15:30	ふりかえり
	16:30	事務連絡/終了
10月24日	9:00	スタッフ集合
	9:30	受付
	10:00	ウォーミングアップ／オリエンテーション
	10:30	セッション3　おはなし
		ファシリテーション（協働促進）のきほんを理解する！
	12:30	昼食
	13:30	セッション4　全体ワーク
		ファシリテーション（協働促進）のツボを押さえる！
	15:15	ふりかえり
	16:30	事務連絡/終了

○**指導実習**

第 1 回：広島市立美鈴が丘中学校　平和学習

・日時：平成 22 年 11 月 15 日（月）14:35～15:25

・対象：中学 1 年生　2 クラス

・場所：美鈴が丘中学校教室

・参加人数：4 名（ファシリテーター2 名、オブザーバー2 名）

・プログラム：ピースクリエイターになろう

時間	内容
0:00	あいさつ/オリエンテーション
0:05	（個人）新聞ワーク「平和なこと、平和でないこと」
0:20	（グループ）新聞ワークのシェアリング
0:35	私＋○＝平和　ワーク
0:45	共有/クロージング
0:50	終了

第 2 回：広島市立石内小学校　出張講座

・日時：平成 22 年 11 月 24 日（水）10:45～12:20

・対象：小学 5 年生　3 クラス

・場所：石内小学校体育館

・参加人数：7 名（ファシリテーター5 名、オブザーバー2 名）

・プログラム：みかん争奪戦（人権教育ワークショップ）

時間	内容
0:00	あいさつ/オリエンテーション
0:05	集団疎開の写真を使ったフォトランゲージ
0:20	（グループ）みかん争奪戦
0:40	共有/クロージング
1:00	終了

※本プログラムの直前に、資料館による被爆の実相を伝える講話（30 分）を実施。

第３回：立命館大学　スタディツアー

・日時：平成 22 年 12 月 4 日（土）16:30～18:30

・対象：大学生（日本人 30 名、外国人 30 名）

・場所：広島市青少年センター研修室

・参加人数：7 名（ファシリテーター7 名）

・プログラム：ピースクリエイターになろう

時間	内容
0:00	あいさつ/オリエンテーション/世論調査
0:30	（個人）新聞ワーク「平和なこと、平和でないこと」
1:00	（グループ）マッピングシェア
1:30	私＋○＝平和　ワーク
1:45	共有/クロージング
2:00	終了

第４回：広島大学附属東雲中学校　出張講座

・日時：平成 22 年 12 月 8 日（水）10:45～12:35　13:40～15:30

・対象：中学 1 年生　3 クラス

・場所：東雲中学校教室

・参加人数：6 名（ファシリテーター5 名、オブザーバー1 名）

・プログラム：ピースクリエイターになろう

時間	内容
0:00	あいさつ/オリエンテーション/世論調査
0:30	（個人）新聞ワーク「平和なこと、平和でないこと」
0:50	休憩
	（個人）新聞ワーク「平和なこと、平和でないこと」
1:30	私＋○＝平和　ワーク
1:45	共有/クロージング
1:50	終了

○つくりだす平和のためのファシリテーター養成講座　まとめ回

・日時：平成 23 年 1 月 10 日（月・祝）

・場所：広島平和記念資料館　会議室 2

・参加人数：13 名

・講師　メイン：河野宏樹　サブ：堀江清二　平尾順平（これからの学びネットワーク）

・研修目標（ねらい）：

・指導実習の場の共有を行なう。

・ファシリテーターとしての課題の整理とまとめを行なう。

・注意点：個人の都合により、指導実習に参加できた参加者とそうでない参加者がいるため、指導実習の内容を中心にふりかえり、情報の共有を行ないました。また、指導者養成事業としてどのようなことが期待されるのか参加者からニーズをひろいました。

・スケジュール

時間	内容
9:00	スタッフ集合
9:30	受付
10:00	開始／オリエンテーション
	目標の共有と規範、スケジュール確認
10:20	セッション1　実習の共有
	実習風景上映30分
	実習参加者から雑感発表＋QA
	調査用紙記入
12:00	昼食
13:00	セッション2　次年度への課題の整理とまとめ
	・全体カリキュラムふりかえり
	・グループディスカッション
	（参加者それぞれの立場からの達成点と課題の書き出し）
	（グループ共有→全体共有）
15:00	セッション3　クロージング
	感じたこと　学んだこと　シート記入
	グループ共有
	全体共有
	QA
	フリップふりかえり
16:00	終了

３－３．クロージングミーティングの内容

・日時：平成 23 年 1 月 12 日　12:00～16:00

・場所：広島国際会議場　研修室３

・参加者：山根眞裕美、山崎義男、阪谷文子、沖田なつき（広島平和記念資料館）吉岡康行（広島県教育委員会)、森川敦子（広島市教育委員会)、中山修一（広島大学名誉教授)、込谷晃（青年海外協力協会)、堀江清二、河野宏樹、平尾順平（これからの学びネットワーク）

・ミーティングの目標：

　・本プロジェクトこれまでの結果を共有する。

　・次年度に向けての課題を整理し、まとめる。

・プロジェクトの目標：

　・参加者間で共通言語をつくる。

　・地域の教育力を強化するための案が見える。

・内容

　・オリエンテーション／研修結果、実習結果

　　実習風景のムービー鑑賞

　・ワークショップ討議（全体）

　　テーマ１：社会教育と学校教育のつながりをどのように捕らえるのか

　　テーマ２：指導者のコーディネート方法

　　テーマ３：予算とコストの処理方法

　　テーマ４：地域人材の掘り起こし方・広報の方法

・結果の要約

テーマは４つ事前に用意しましたが限られた時間のため、テーマ１：社会教育と学校教育のつながりをどのように捕らえるのか、およびテーマ４：地域人材の掘り起こし方・広報の方法を重点的に議論しました。これまで疎遠になりがちだった社会教育と学校教育の狭間をうめ、よりスムースな連携をしていくことが望ましいという総意でした。そのためには、社会教育を担う団体と学校教育を担う団体がお互いに取組んでいるプロジェクトに声をかけ合う体制づくりが必要という認識です。またお互いの目標を共有し、相互に理解の得られる学習プログラムを作っていくことが求められています。地域人材の養成・活用方法については、資格認定制度をはじめ検討しなければならない課題があります。今後より幅広い関係者を取り込んでいくことにより、さらに層の厚い指導者を養成できるのではという意見も複数聞かれました。

○クロージングミーティング　ふりかえりシートまとめ

１）本事業を通じて、達成されたと思われる項目は何ですか？理由も併せてご記入下さい。

・「平和学習出張講座」内のワークショップでは、ファシリテーターの方々のリードによって子ども達の反応が、生き生きしたものになっているように感じられました。やはり、平和学習においても、単なる座学にとどまらず、子どもの主体的な学びを引き出す仕掛けが必要であることを再認識しました。
・養成講座の第二回で、広島の平和学習について意見交換する時間がありましたが、あの中で出された意見は資料館職員としてはとても参考になりました。
・実習についての映像を拝見し、養成講座の実践の場として大変有意義であると思えました。学校教育の授業の中に、こういった実習の場を設けるのは、学校側の理解を得られなければ難しく、広島市教育委員会との連携がうまくいった成果だと思います。
・本講座の実施に当たり、委員会を開催したが、多彩なメンバーが集まり、参考になる意見が多く出ました。全員が集まる委員会をもう１～２回開催できればなおよかったと思います。
・社会教育、学校教育の関係者がともに参加して行った事業であったため、ネットワークができ、そのことが本事業の遂行にも役立ったのではないかと考えます。
・平和教育の視点から、地域で強化すべき教育力について議論でき、どのような資質や能力を育てていくべきか、そのためにどのようなファシリテーターを養成すべきかがかなり明確になったように思います。
・ファシリテーター養成プログラムの策定に関する基本的なパターンが獲得できたこと。
・ファシリテーター養成プログラムの実施に関し、教育委員会や平和記念資料館等との連携の在り方を確認できたこと。

２）本事業の課題の中で重要だと感じられる項目は何ですか？その対策案もあれば併せてご記入下さい。

・ミーティングのテーマにもなっていましたが、養成したファシリテーターが活動できる場をあらかじめ想定しておくことが重要であるように感じました。講座開始の際に、「こういう活動の場があります」ということを紹介できれば、受講者のモチベーションも上がるのではないかと考えます。
・今年度は、事務局のネットワーク等を使い、30 名近くの参加者を確保できましたが、通常の募集ではなかなか参加者を集めるのは難しいと思います。参加者の確保と今後の事業成果の拡

大のためには、大学との連携が欠かせないと思います。大学の講座やサークルと連携をし、授業の単位認定を含めて、大学等に働きかけることが必要であると思います。

・養成されたファシリテーターが活動する場の確保を行うために、広島平和記念資料館と連携をし、ボランティアとして、資料館で活動できるようしていくのはどうでしょうか。従来のボランティアと別に指導内容を変えて行えないでしょうか？

・ファシリテーターをとりまとめるコーディネーターの役割の整理や経費の確保をどのようにするか。同様に教材費等を参加者（学校等）の負担にできるようにもっていけるか。講座内容をまとめたパンフレット等を作成し配布することも大切だと考えます。

・社会教育を推進していく上で、今後も学校教育の関係者との連携を図り、学校教育や児童生徒の実態等を踏まえた上で、社会教育におけるニーズを把握し、目標設定をしていくことが重要ではないかと思います。

・社会教育関係者と学校教育関係者が連携し、各自の取組に相互に生かしていくことがよりよい市民の育成につながると考えています。

・この種の事業では、将来的にファシリテーターを必要とする機関の真のニーズは何かを、事前に十分に把握することが重要となります。連携する機関のニーズ調査を事前に十分に行うことは、こちら側が提案したいファシリテーターの特性と、学校側や平和記念資料館が期待するファシリテーター像の事前の十分なすり合わせが事業の成否に深く関わってくることを再確認したい。

３）今回のメンバー（全員でも一部でも）で、今後実施が提案できる事業がございましたらご記入下さい。

・来年度に本事業をどのように発展させていくかについて協議し、広島平和記念資料館において活動するボランティア養成に特化した事業を行うこと。(大学との連携が前提となります。)

・広島大学及び広島市立大学の「平和学」の講座を持つ教授と連携をし、ファシリテーター養成講座を単位認定するよう働きかけること。

・ＪＩＣＡ、もしくはＪＯＣＡと協働する事業。

・学校側の要望をよく聞き取り、それぞれの要望に応じた出前講座担当のファシリテーター養成事業に、初級者向け、中級者向け、上級者向けとクラス分けした事業を提案したい。当面は、平和学習、環境学習、持続可能な社会づくり（ＥＳＤ）学習などが考えられます。

４）その他感じたこと考えたこと、さらに深めて議論したいことがあればご記入ください。

・近くて意外と遠い業種の方々と意見交換することができ、とても有意義でした。

・勉強会を行いたい。

・社会教育も、対象となる方々の年代等によってもより有効なアプローチの方法は異なってくると思います。今後展開していく事業も、いろいろなバリエーションができるとよいかと思います。

・もし、平和記念資料館が被ばくの実相の継承、反核運動の継承を担える人材の養成を強く期待しているのであれば、今一度、その期待像と未来の人々（世界の中の自分を見ることができる人々）の期待像とを一致させるプログラムに再挑戦することもありえるのではないでしょうか。

３－４．アドバイザー委員へのヒアリング内容

広島平和記念資料館（山根眞裕美さん・阪谷文子さん・沖田なつきさん）へのヒアリング

プログラム内容と連携

（資料館）ワークショップの時間については、学校教育の中で実施するためには中学校の場合 1 時限 50 分なので短い時間で実施可能なプログラムを用意しないとならないと考えています。いくら質の高いものでも学校の受け入れが可能なものでなければなりません。学校向けの短時間プログラム開発が必要ではないでしょうか？また、最終的に成果物として何か形になるものが望ましいのではないかと考えています。

---広島市教育委員会の森川さんは、「学校教育では時間の中で内容を欲張る傾向がある。」とおっしゃっていました。また、「学校教育と社会教育の内容は、お互いに個々の特色があることが望ましいのではないか。」というご意見も頂きました。学校のニーズをつかみ、納得できる内容である必要はあると思いますが、学校教育のスタイルに合わせすぎる必要はないのではないかと考えています。

（資料館）成果物に関しては教育委員会とも相談する必要がありますが、なんらかの成果物を作った場合に、資料館で展示するという連携の方法もあるかと思います。学校教育と社会教育が別々に行うのではなく、効果的な所で連携していくことは視野に入れていくべきだと考えています。

指導者の資格認定制度と募集方法

（資料館）ミーティングの場では指導者の資格認定制度の是非に関して、いろいろ意見が分かれましたね。

---認定制度があれば広報力が高まるかもしれませんが、取得すればいいという短絡的な思考を指導者の中に生む可能性もあります。資格があるから能力が担保されるわけではありません。また、資格を取得した後に活動する場がないと、市民による教育力が上がりません。研修と活動の場が一体化したピースボランティア制度（資料館内と公園内のガイド養成制度）は研修と活動の場をしっかりと持っている一つの制度ですね。

（資料館）今回の募集では広島市外在住の参加者もいるのでこういう方々は継続して参画することが難しいかもしれませんね。

---今回は参加者の募集方法よりも、仕組みとして実際に研修を回してみるということに重点を置きたいと考えています。資格登録制度や募集方法については来年度以降の課題ですね。
（補足：今回は広島市外在住の参加者でも実習まで参加した人もいました。一概に広島市外在住の指導者が広島市内の活動に対して参加できないとは言えないと考えます。）

養成した指導者の活用・運用

（資料館）今回の仕組みの中で養成した指導者は、資料館が直接管理することはできないので、NPO で継続して管理してもらう必要があると思います。また今後の出張講座で発生する費用をどのようにして賄っていくのかは課題です。出張講座自体の委託も検討事項としてあると考えています。

---指導者養成研修で育った人材をNPOだけの抱え込みにする必要もないのではないかと考えています。むしろ様々な参加型の事業をする場に参加していくことによって個々人のスキルは上がると考えています。費用に関しては、現状でも総合学習に行っているゲストティーチャーは教育委員会から謝金を支払っている場合もあるので、そのような枠組みを利用するのもひとつの手段だと考えます。

（資料館）個人に対して資料館から講師派遣する場合には、なぜその人が派遣されるのか？という理由付けが明確でないので活用しにくい面があります。指導者資格認定制度があれば、その根拠をつくることができると思います。資格とまではいかなくても修了証を発行する程度のもので問題ないとは思います。

---整理すると、指導者資格認定制度があったほうがいいということになりますが、この場合認定先は資料館でないと意味がないということになりますね。

（資料館）この場合は、資料館が別途、広報・養成して認定という形になると思います。研修は別途外部に委託するという手段はあると思います。

---公的手段を使って幅広く広報すると、資質がそろった人が必ずしも集まるとは限らないと思います。名前だけ登録という人も現れてきますし、資格が独り歩きする可能性もぬぐえません。また、資格認定制度もしばりをきつくすると、既に実践経験がある人が現れても、いったん研修を受けてもらわないと認定できないことになり、臨機応変に対応できないようになるデメリットがあります。

（資料館）そうですね。被爆証言やピースボランティアに関しては、資料館で今後も運営していけばよいと思いますが、平和ワークショップについては現段階では今後運用するのは困難なことが予想されます。

---ピースボランティアの枠組みを変えることは今後もないのでしょうか？

（資料館）それはありません。現状の館内案内と公園案内のみで今後も運用していく予定です。追加の募集や活動曜日の変更など細かい変更は行っていく予定です。

（資料館）現在広島でファシリテーターが他に活躍できる場はあるのでしょうか？

---例えば、環境教育の場では常に必要とされています。様々なイベントの場を回す場合には必ずファシリテーションの能力が必要となってきます。もちろん、その場はさらに広げる必要はあると考えています。

（資料館）環境教育、人権教育、国際理解教育、平和構築といった場では、参加型の学びの場がメジャーになっていますが、平和教育、特に被爆の継承ということをテーマにしたワークショップというのはそれほどないと考えています。広島の平和をテーマにしたワークショップ型の学びをこれから作っていかなければと考えています。広く海外に広め、参加者の達成感や成果物の充実を図るといった観点では、折り鶴づくりといった活動は優れているのですが、そこからの創造性という観点からは不十分な面も否めません。例えば、何らかの体験を絵本などにして、それをさらに他の人に伝えるといった活動が必要だと考えています。

資料館での「学び」の機能

---ミーティングの時に、資料館では啓発と学芸というセクションの働きについて少しお話しを頂いたのですが、もう少しお聞かせ下さい。

（資料館）啓発活動として、これまで資料館に来てもらって「学ぶ」ということはあっても、出張講座として外で「学ぶ」ということがありませんでした。近年、出張講座の枠組みも加わり資料館の中だけでなく学校など外での学習の場が広がってきました。さらに今回はワークショップ型の出張講座にも取り組もうとしています。

---ニーズが広がったということですか？

（資料館）ニーズというよりも、「継承」しないといけないという意見から出てきたものだと思います。継承していくにはワークショップ型の授業が必要という観点です。
学校側にどれくらいのニーズがあるかはよく分かっていません。資料館からは被爆の実相を教えてもらえればいいと考えている学校も多いかもしれません。

---広島市教育委員会の森川さんのお話では、平和学習は被爆の実相を知るということのみならず、授業の中で「そもそも平和とは？」いうことについても考えていかなければならないと考えているようです。

（資料館）被爆の実相を知ることは非常にインパクトの強いことなので丁寧に取り扱わないといけません。

---そうですね。インパクトの強いことが必ずしも「学び」になるとも限らないと思います。ショックでトラウマになるという点も見逃せないと思います。特に低学年に対する平和学習では慎重に取り扱う必要があると思います。心の中にレセプター（受容体）がないとインパクトの強すぎることに対して受け止めることができない場合があると考えています。

出張講座のコーディネーション

---本プロジェクトを実施するにあたってファシリテーターの質の維持とコーディネーションおよび交通費などに費用は発生してくると思います。少なくとも研修会に関しては、来年度も継続して当団体では行っていきたいと考えています。
しかしながら現状、修学旅行など予算がある枠の中では可能ですが、予算の限られている学校教育の中では継続性が問われるかもしれません。学校教育の中で出張講座を行う場合には予算をスリム化して、ボランティア指導者（ファシリテーター）を集めて行う必要性が高まると予想されます。

（資料館）12 月の東雲中学校での出張講座実習については調整を進めているところです。通常学校で出張講座を行う場合、同じ時間帯に実施して欲しいという意見が多いです。時間を大きくずらしてやるということは難しいと考えます。そこで、大きな部屋で一度に行うか、複数の指導者を用意して行うかという選択肢があると思います。また、大人数を 50 分程度で一度に行うことのできるプログラム開発は必要だと思います。
被爆の実相を学ぶことは現状基本的なスタイルとして一般化していると思いますが、ワークショップのスタイルは一般化していないので、それを改めて説明していくことが必要になると思います。例えば 90 分（2 時限分）の授業があった場合、30 分被爆の実相の授業を行い、60 分ワークショップをしていくということも考えられます。そのようにセットにすることによって学校にも理解されやすいと思います。

---広島市教育委員会では教員研修などを通じて学校の教員が平和学習ワークショップを実施していこうとする動きもあるようです。課題としてはワークショップを運営できるようになるための時間と労力（研修や周知）がそれなりに必要なことが挙げられています。
ゲストティーチャーとしてのファシリテーターを派遣するためには、平日に動くことのできる人材の発掘も課題です。もちろん、休日もイベントなど主催すれば、休日しか参加できない指導者も参加できると考えています。

社会教育施設・団体におけるコンソーシアム

---今回は個別に話を伺う場を全体でのミーティングの後に取っていますが、より気軽な話し合いができる勉強会を持つことが大切ではないかという案もあります。

（資料館）最初は珍しいので勉強会に集まるとは思いますが、定例化するとメンバーが固定化して議論も硬直化するというデメリットもあると思います。いろいろな話を聞けるのはメリットですが、それが負担になるという意見もあると思います。メリット・デメリットを把握した上で適切な関わりを持つことができるとよいと思います。

---JOCA では今後協力隊 OB が活動できる場がどれくらいあるのか？どこに行けばネットワークが広がるのか？ということが知りたいということです。今後も実際の事業を動かしながら多様な主体と協働できる場を増やしていきたいと考えています。ご意見ありがとうございました。

広島県教育委員会事務局　教育部生涯学習課生涯学習支援係　吉岡康行さんへのヒアリング

社会教育に携わる指導者に対する資格認定制度

---資格認定制度に関しては形骸化するなどの批判的な意見もあります。吉岡さんは認定制度を導入した方がよいというご意見ですがその理由を改めてお伺いします。

（吉岡）極論になるかもしれませんが、形骸化する場合があってもいいのではないかと思っています。運転免許でもペーパードライバーがいるように全員が実働できるとは思えません。幅広く入り口を確保することによって、深く入り込む人が現れる率も高くなると思います。また、現在の検定ブームが示しているように、形があることによって参加者がその存在を知り、取り組んでみようという動機につながることはあると思います。簡単な試験程度があって認定されるぐらいのものも十分だと考えています。
ただ、資格認定制度を導入するにあたっては一つ条件があると考えています。それは認定母体となる団体は継続して取り組みを続ける必要があるということです。認定団体がなくなると同時に認定内容に意味がなくなるのは問題ですからね。

---この意見には同感です。将来的には資格認定制度などを通じて広島で育ったファシリテーターが世界で通用するような人材に育つよう仕組みを作りたいと考えています。

指導者の輪をどのようにして広げていくのか

（吉岡）資格認定制度につながる話になりますが、より多くの人を指導者（ファシリテーター）として育てる場合、どのような手法があると思いますか？

---現状これがベストという考えがあるわけではありません。資料館でも議題になったのですが完全にオープンにしてしまうと勘違いしてくる人も多くなるというデメリットもあります。

（吉岡）個人的には大学生など若い人が関われるような広報をするとよいと思います。大学とも連携して研修や実習に関わることのできるような枠組みを作るのはどうでしょうか。

---同感です。ただし大学生は人材としては流動的なのできちんと社会人で関わることのできる人も同時に募集していくことは大切だと考えています。

プログラム集（平和学習）の作成に関して

---プログラム集を作るという話も様々な方面から出てきているのですが、プロジェクトベースの仕事の中で制作しないと、十分なものは作ることができないと考えています。幸い広島市教育委員会では現在プログラム集を作るというプロジェクトが動いていますので、機会があれば社会教育団体サイドからもアイデアを出してみたいと考えています。

（吉岡）そうですね。教育委員会と協働でプログラムを作っていくことができるのなら、社会教育で培ったノウハウを学校教育のノウハウと合わせてよりよいものができる可能性があると思います。

ただ、プログラム集にも問題があって、プログラム集を作っただけでは、先生への周知徹底まではほど遠い現状があると思います。冊子が文字のみで読みにくいというのも問題だと考えています。

---そのこともあり、広島市教育委員会では教員研修とセットにするという話も出ています。広島市の場合は、広島市内の学校のために広島市教育委員会が研修を組んで提供できることが利点だと思います。

指導者（ファシリテーター）評価に関して

---今回の研修では、人材養成の成果を今後とも定量的に測定するためにファシリテーターの評価軸（特に、参加型の場を回すという視点）を導入してアンケート調査をしています。

（吉岡）これまでまとまったファシリテーターに対しての評価軸はあまりなかったかもしれません。一度決定したら数年は運用してみて検証できるようにするのがよいと思います。ただ現状もう少し精査すべき項目（評価段階など）もあると思います。

学校教育と社会教育の役割

---子どもたちに獲得してほしい力は学校教育と社会教育とで大きく違うということはないと思うのですが、役割分担という観点ではどのように考えたらよいとお考えでしょうか？

（吉岡）教育委員会の中でもいくつかセクションがあって分業しているのですが、お互いに何をしているのか見えない状況が生まれることは、芳しい状態ではないと思います。しかしながら、単一事業を複数のセクションで取り組むことは数としては少ないケースであり、このようなネガティブな状態が生まれがちです。
また教育委員会の中でも、学校教育の場しか体験していない人と、学校教育と社会教育の場も両方体験している人では考え方が少なからず違うと思います。学校教育と社会教育に携わる人の出会いは、コンソーシアムとまではいかなくても、もう少し気軽なかたちの勉強会レベルで構わないのであるとよいと思います。お互いを知りながら教育に対する議論をするような場があるとこのような溝も埋まっていくのはないかと考えます。

---広島でもESDがはじまった2005年にESDをテーマにした勉強会を社会教育の分野では行っていたのですが、こういった場も社会教育の中だけでなく学校教育に携わる方々にも声をかければよかったと感じています。小規模な勉強会なら今後も続けていくことができると思いますので今後の検討事項として挙げたいと思います。ご意見ありがとうございました。

広島市教育委員会事務局学校教育部　指導第二課　森川敦子さんへのヒアリング

学校教育と社会教育の分野を横断した連携

---今回のプロジェクトでは､コンソーシアムによって社会教育に関わる方々と学校教育に関わる方々との接点を作っています。このことに関してのお考えをお聞かせ下さい。

（森川）学校教育と社会教育の分野で活動している個人や団体は、目指しているところは同じなのですがお互いのことを知らないでバラバラにやっているという現状が問題点としてあると思います。このような現状を改善するためには、複眼的に見て、お互いに補完しあうことが必要ではないかと考えています。お互いの枠の中での活動には限界があるので、それぞれの役割を確認しながら取り組むことが先決だと思います。

また、学校教育と社会教育の分野を横断した連携を進めるにあたって、社会教育の中で指導者養成をするのみでなく、教員研修を実施し教師の資質を高めることによってより教育効果が高まると考えています。学校教育の中で教育内容が１・２年で各教員まで普及することは困難なことなので、子ども達が社会教育と学校教育との往復の中で学んでいくようなスタイルが望ましいと考えています。

先日、資料館の担当者の方が主催事業のピースキャンプのことを学校教育の中で伝えようとしたところ、消極的な反応であったと聞きました。学校で広報すると強制のように受け止められることがあるようです。また、平和学習は政治的な思想を含む場合があるので、慎重に選択しないといけないという考え方もあると思います。しかしながら、私自身は子ども達の興味のすそ野を広げるために、学校教育以外の広島市の活動をうまく伝えていく必要があると考えています。現場の教師としては教育委員会が関わっていれば問題がないと思う側面はあると思うので、社会教育施設と教育委員会の横の連携は必要だと感じています。

---広島県立の社会教育施設に関しては、学校でちらしを配ってもらうことが可能です。ただ、環境や自然体験ということがテーマなら比較的ハードルが低いと思うのですが、平和や人権ということがテーマの場合ハードルが高くなる傾向があると思います。

学校の教員が、広島市の取り組みや社会教育に関して知らないということもありますが、そもそも教育委員会や社会教育施設が同じ場で議論するということがないということも問題点としてあると思います。

---連携が必要だということですが、具体的にはどのような枠組みが望ましいとお考えでしょうか？

（森川）今回のプロジェクトに関係できることは、チャンスだと捉えています。こういうプロジェクトがないと連携する機会を作ることが難しいかもしれません。また、今回のように社会教育施設による出張講座のような具体的なプロジェクトがないと、連携することが難しいと考えています。

---同感です。今後も NPO として各主体と連携できるような企画をたて、プロジェクトを走らせながら、顔をあわせることによって連携していくことができると実感しています。

（森川）学校教育の中であれば、一度決定すれば何年かは継続して教育現場で運用されるわけですから、社会教育施設や NPO にも継続して関わって頂ければ効果的だと考えています。

---継続した関わりという観点では、キックオフミーティングにおいて ESD や参加型の学びを促進するためには教育基本計画の修正に関わる必要があるという意見もでましたね。

プログラム集（平和学習）の作成に関して

---今回､広島市教育委員会では平和学習に関連したプログラム集を作成されるということですがどのような意図があるのでしょうか？

（森川）プログラム集を作成することによって技術の継承をしていく必要があると考えています。最近作成した小中の道徳のプログラム集は作成に 2 年間かかりました。内容として指導案と教材、注意事項が盛り込まれています。ただ、これらのプログラム集を配布しただけでは教員はプログラムを実施することはできないので、校長会での宣伝や教員に対する研修をセットにしています。平和教育も同じようにテキスト化して研修をしていけば、徐々に広まっていくと考えています。

---JOCA でも学校教育の時間の中で取り組むことのできるような短時間でできるプログラム集（広島型の平和教育・国際理解教育・人権教育）を作成することが望ましいという意見が挙がってきました。個人的にも何らかの手段を講じていく必要があると考えています。

（森川）教材開発委員会の中に入っていただければ、教育委員会の枠の中でプログラムを作成していくこともできると考えています。来年度は 1 年間かけてプログラム集を作っていくことになります。

---他の教員研修を実施した経験からすると､社会教育の分野で行われている参加型の学びに対しての、学校教育現場での教員の皆さんの認識はそれほど高くないと感じています。これからの学校教育における参加型の学びについてはどのようにお考えでしょうか？

（森川）学校には年間に大量の冊子が届くので、プログラム集だけを届けるだけではうまく機能しません。研修と学校長へのアドバイスをセットにしないと機能しないと考えています。強制ではないのでそれくらいの努力は必要です。この働きかけの中で、子どもが変化すれば教師の意識も変わっていくと考えています。

学校教育の中での社会教育プログラムに関して

---学校教育と社会教育において､根本的な教育目標に対しての差異は少ないのではないかと思います。しかしながら、社会教育の中で実施されている参加型の手法を学校教育の中に取り入れるにあたっては、より時間の短いプログラムを開発してそれを回すことができるファシリテーターを養成することが求められていると感じています。

（森川）プログラムの内容に関しては、社会教育団体と学校が共通のプログラムを持ちながらも、社会教育団体がさらにバリエーションのある内容を出張講座で実施すれば相乗効果があるのではないかと考えています。
特に中学校・高等学校になると、人権・環境・国際理解といったことも含めた平和教育にしていかないといけないと考えています。そこでその分野でノウハウを持っている JOCA の活動にも非常に興味を持っています。
取り扱う議論の内容はリアリティのあるものを用意すれば、生徒の本気度が高まるとは思いますが、公教育の中でどこまでのリアリティを扱うのかの線引きは難しいところです。今回の研修における大学生（参加者）の意見を元にすると、高校の授業の中で「学校の平和学習ではどのように広島平和記念資料館の内容を扱うべきなのか？」ということを話し合ったら興味深い結果になるかもしれないと個人的には想像しました。
またプログラム内容の周知に関しては、年に 2 回平和教育の実践講座があるので、そのような場で実習すれば効果的ではないかと考えています。社会教育団体による出張講座・教員研修・

実践講座と複数回にわたって普及していくことが必要だと思います。草の根的に興味のある人に普及することと、ある程度強制力をもって教師に伝えていくことを両方することによって、効果が高まっていくと考えています。
プログラム集も基本編（学校教育分野で活用）・発展編（社会教育分野で活用）というように、プラットフォームを共通にしながら作っていければよいかもしれません。

---そうですね。教員研修等で教員の皆さんに社会教育の分野で行われている活動を伝えるにしても、「ワークショップ」「ファシリテーション」といった基本的な言葉の内容を予め予備知識として知ってもらうことも必要だと思います。
また、先ほどのお話にありましたように社会教育施設との連携も視野に入れたらよいのではないかと考えています。

（森川）その点では残念ながら教員の時間が非常に限られているために、平和学習・環境学習・体験学習にといった社会教育施設と密に連携できる部分で時間を割くことが難しいという現状があります。
ただそのような現状の中でも、平和学習に対する必要性を作り出すという視点も重要だと考えています。教育委員会による指針をある程度浸透させることにより、教員が必要性を感じていくようなプロセスが重要だと考えています。
さらに、学校教育の中で参加型のプログラムを導入していくためには、短いプログラムを個別に作っていくということと、現状にある長い時間が必要なものを授業の時間に合わせて区切って実施するということが可能性としてあると思います。

---今回の市民ファシリテーターの実習では、学校の時間枠に合わせて時間と内容を調整して実施しようと考えています。ご意見ありがとうございました。

社団法人青年海外協力協会（JOCA）中国支部　込谷晃さんへのヒアリング

地域の指導者養成および活動の実際について

（込谷）今回は資料館との共同研究ということもあって、資料館が担う部分での平和教育という部分がクローズアップされていますが、それにとどまることなくより広い視野での社会教育・平和教育について考えていきたいです。

---今回の場のみならず幅広い活動フィールドで活躍できるファシリテーターを養成したいと考えています。もちろん、JOCA の持っている資源を活用して活動の場を広げていくことも可能だと思います。今回は JOCA 東京本部の協力も仰ぐことができるということなので第３回のファシリテーター養成講座ではゲスト講師をして頂きました。これも社会教育機関の横のつながりがあってできることですね。

---学校に出向いて出前講座として指導してみたいと考えている協力隊 OB の方はどれくらい存在するのでしょうか？

（込谷）出前講座に行ってもいいという意思を持っている人は多いと思います。JICA が関係している出前講座だけでも中国地方で１県 30～50 回ぐらい実施しています。近年では体験談だけではなくそれに合わせて「貿易ゲーム」や「100 人村」といったワークショップをして欲しいというニーズが高まっています。ただ、個人で行っているような段階なので隊員同士での質は統一されていません。質を均一にするための研修をした方がよいという意見もありますが、そこまでまだ着手できていない状態です。
また、道具や教材といった活動の素材をどのように使うのかということよりも、場をどのように回すのかということに主眼をおいて研修をする必要があると考えています。素材が変わっても実践することのできる、応用の効くファシリテーター・指導者の養成は必要だと考えています。
協力隊 OB では広島で年間 50 数ヶ所 JICA の出前講座を実施しているのですが、リピート率は高く、ある一定の学校が毎年実施しているという状態です。直近では JICA 出前講座で５人の協力隊 OB が体験談を話すのですが、やはり非常に熱心な先生がその場を設定しています。逆に先生の理解がないとなかなか学校の中に入ることは難しいと思います。近年は校長会などでプログラムの内容を広める努力をあまりしていないので、なかなか広がっていない現状があります。学校以外にも公民館などでもプログラムを実施する可能性はあります。先日もアフリカのこと

を公民館で紹介して欲しいという打診がありました。その場では高齢者の参加者が多かったのですが、夏休みに実施すれば親子や子ども対象に実施することも可能だと考えています。

---広島市内で実働可能な協力隊 OB の数は潜在的にどれくらいあるのでしょうか？

（込谷）こまめに連絡をすれば 20 人くらいはいけるかもしれませんが、連絡に労力が必要な状態です。帰国隊員に対しても継続的な呼びかけを行わないと連絡が疎になりがちです。また、隊員が帰国したときに、すぐに何か行動する人は少ないです。帰国した隊員に対して彼らの資源を活かした活動を紹介することは今後行うべきことのひとつです。

（込谷）協力隊 OB への呼びかけはそれなりに努力のいることなのですが、指導者養成講座の広報を工夫してより幅広く集めることは得策なのでしょうか？

---恐らく幅広く集めすぎると、集まってくる人の質が下がってくる可能性があります。資料館とのヒアリングの中でも、丁寧にファシリテーターになりうる人を発掘して養成する方が結局は得策だろうという話がでてきました。しかしながら、あまり条件を付けすぎると指導者の多様性が失われてしまいますのでちょうどよい募集規模はよく考えて設定しないといけません。

人材バンク・コーディネーター養成に関して

---このプロジェクトを通じて、参加型の学びの場を回すことのできる指導者の人材バンクをつくることを中期的な目標として考えています。

（込谷）そうですね。様々な主体が関わるコンソーシアムをつくることによって、養成した人々をどのように活用できるのからさらに考えたい。JOCA はそこに関心があります。人材バンクには興味がありますが、誰が主体となってどのように作って維持するのか、認定先をどうするのかなどの考えるべき課題がありますね。また議論したいテーマです。

（込谷）ファシリテーターおよびコーディネーターの養成の仕組みついてはどう考えていますか？

---ファシリテーターとコーディネーターは別物だと考えています。ファシリテーションができれば、コーディネーションができるかというとそうではない。現状この枠組みの中では、市民指

導者がファシリテーターとして参加型の場を回すことができるようになるという目標を最初の一歩として設定しています。さらに、人材養成に関しては、認定制度や評価制度を作って質の担保をする必要性も出てくるかもしれません。コーディネーターの養成はファシリテーターの養成とはまた別の軸で走らせる必要があると考えています。

プログラム開発に関して

---資料館のニーズを把握した結果、現状用意しているワークショップのプログラム（ピースクリエイターになろう）は所要時間が長いのでもっと短いプログラムを作成し、かつ平和に特化したものを作成しないといけないという認識はあります。
新しくプログラムを作成するにあたっては予算組みなどの課題がありますが、JOCA ではプログラム開発に関してどのように考えていますか？

（込谷）現状単発のプログラム展開となっています。他機関とのより広いネットワークの中で運営することができれば、プログラムも充実していくと考えています。JOCA だけで開発をしようとすると大変なので同じようなニーズを抱えた協働先を探していくことも必要ですね。JICA 中部では、社会教育の場で使えるようなプログラム集を既に出版しています。
そこで、このようなプログラム集を活用したコーディネーションのための研修をしたいと考えていますがなかなか実現していません。こういったプログラム集の広島版を作り、そのコーディネーションの枠組みもセットで提供していくことがこれからやるべきこととして挙げられると思います。隊員の海外での経験とヒロシマの体験をうまく融合させるとオリジナルの教材をつくることができるかもしれません。

---協力隊 OB の方々が社会教育の場でさらに活躍するためには、プログラム集の作成とファシリテーション・コーディネーションの研修をセットにすることは必要な要素のひとつですね。ご意見ありがとうございました。

本研究の効果と分析

１．総評

本研修における学習自己評価平均は 3.51（4 段階評価）で「3:まあまあ学んだ」と「4:よく学んだ」の中間となり、参加者が「場の回す能力」に関しておおむね学習したと感じていることが分かりました。しかしながらファシリテーション能力の向上度は、実際に指導実習を積んだ場合とそうでない場合（座学とワークショップのみ）では差が表れました。座学とワークショップのみで学んだ場合、そこからの能力向上は各個人の実践に左右されましたが、実際に指導実習を行なった参加者の能力は各個人の実感からも確実に向上していることが推察されます。

ふりかえりシート集計による定性的評価として読み取れる大きな事項のひとつは、ファシリテーターのスタンスや在り方に対して感じたり学んだりという感想が見られる一方、テクニックやセオリーといった基礎的な型を知りたいというニーズも高いことです。

前者は主に参加者が実際にファシリテーターとなって場を作った時に、はじめて理解が進むことだと考えます。ファシリテーターが判断を迫られる難しい局面に直面しながら、ねらいが価値誘導になっていないか、中立性が確保されているのかといった試行錯誤から得られた学びと推察されます。

それに対して後者は、特にワークショップの具体的なアクティビティを扱った時に表れました。一定の型やセオリーを学ぶことは最初の段階では必要なプロセスなため、丁寧なプログラムの進行方法を実演し、そこから学びを得ていくことは大切だと考えています。しかしながら、具体的なアクティビティを扱った際には、参加者がコンテンツに興味が高まりすぎることもあります。この場合、参加者がコンテンツにとらわれてプロセスが見えなくなることもあるため慎重に軌道修正する必要があります。また、ファシリテーションに関してのテクニックやセオリーを知るということと、ファシリテーションができるようになるということに必ずしも相関性はなく、文字だけの学びにならないよう気をつける必要があります。

全体としては、NPO、教育委員会、社会教育施設といった多様な地域の教育主体が関わりながら、参加型の進行方法で 4 回の座学とワークショップを行ない、さらに現場での 4 回の指導実習を行なう過程の中で、実際の指導現場で活躍できる指導者を養成することができました。引き続き当団体としては協働先を充実させ指導現場を確保しつつ、より一層質の高い指導者養成の場を提供することが求められていることを実感しています。

２．社会教育に対する意識調査集計結果

ファシリテーターには大きく分けて、「場を回す能力」と「場を作る能力」が求められます。ここでは「場を回す能力」は実際の教育現場で参加者に対応するための能力を指し、後者の「場を作る能力」は実際の現場を受け持つ前の準備ですべきプログラムデザインの能力を指すこととします。今回の研修は予めあるプログラムをどのように現場で回していくのかということに焦点を当てて進めました。そこで評価軸も「場を回す能力」を中心に置き、アンケート調査票に自己評価方式で参加者が各自記入する形態をとりました。

社会教育に対する意識調査票（参考資料参照）は、研修前に現状を評価する事前調査、第1回～第4回のファシリテーター養成講座の後に行なった中間調査、ファシリテーション実習を行なった参加者に対して行なった事後調査の計 3 回実施しました。各調査における質問項目は同じもので約 20 項目の質問に解答する形式としました。これらの項目は 5 段階評価とし、定量的な測定を行ないました。各個人の参加は回によって参加不参加にバラつきがあるため母数 24 の内、有効な回答は 13 となりました。

まず、本研修における学習自己評価（中間および事後調査における 2 の質問の後者の項目）平均は以下の表 2 の通りとなりました。全体での平均は 3.51（4 段階評価）で「3:まあまあ学んだ」と「4:よく学んだ」の中間となり、参加者が「場の回す能力」に関しておおむね学習したと感じていることが分かりました。

表 2）学習自己評価平均

学習自己評価平均（座学のみの参加者）	3.54
学習自己評価平均（実習までの参加者）	3.48
学習自己評価平均	3.51

次に個別の集計表に関して考察します。表３で示している A〜F の参加者層は第１回から第４回までのファシリテーター養成講座には参加をして、その後の指導実習には参加できなかった層です。おおむね自己学習評価は高いものの各項目で示されるスキルに変化がないことを示しています。

表 3）社会教育に対する意識調査（A-F）

	A			B			C			D			E			F		
1(1)	40代			20代			30代			50代			30代			20代		
1(2)	ある			ある			ない			ある			ある			ある		
1(3)	ある			ない			ない			ある			ある			ない		
調査	事前	中間	学習	事前	中間	学習	事前	中間	学習	事前	中間	学習	事前	中間	学習	事前	中間	学習
2(1)	4	4	4	3	3	4	1	1	4	4	4	3	3	3	4	3	3	3
2(2)	4	4	4	3	3	4	1	1	4	3	3	3	2	2	3	3	3	3
2(3)	4	4	4	3	3	3	3	3	4	4	4	3	4	4	4	2	2	3
2(4)	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4	4	3	2	2	4	4	4	4
2(5)	3	3	4	3	3	4	3	3	4	4	4	2	3	3	4	3	3	4
2(6)	3	3	4	3	3	3	3	3	4	3	3	3	4	4	4	3	3	4
2(7)	4	4	4	2	2	4	3	3	4	4	4	2	2	2	3	3	3	4
2(8)	3	3	4	3	3	4	3	3	4	3	3	2	2	2	4	3	3	4
2(9)	4	4	4	3	3	3	3	3	4	3	3	2	3	3	3	3	3	4
2(10)	4	4	4	2	2	4	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4
2(11)	3	3	4	3	3	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4
2(12)	3	3	4	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	4	3	3	4
2(13)	3	3	4	3	3	4	3	3	4	3	3	3	2	2	4	3	3	4
2(14)	3	3	4	3	3	3	1	1	4	4	4	3	3	3	3	3	3	4
2(15)	4	4	4	3	3	4	3	3	4	4	4	4	3	3	4	3	3	4
2(16)	3	3	4	2	2	4	3	3	4	4	4	3	2	2	3	2	2	2
2(17)	4	4	4	3	3	3	3	3	4	4	4	3	2	2	4	3	3	3
2(18)	4	4	4	3	3	4	4	4	4	4	4	2	2	2	4	3	3	3
2(19)	3	3	4	3	3	4	3	3	4	4	4	2	3	3	3	2	2	2
2(20)	3	3	3	3	3	3	4	4	4	5	5	3	1	1	4	2	2	3
平均	3.5	3.5	3.95	2.9	2.9	3.65	2.85	2.85	4	3.65	3.65	2.75	2.6	2.6	3.6	2.85	2.85	3.5

さらに表４で示しているＧ～Ｉの参加者層はA～F層と同様の参加形態をとりながらも網かけで示した項目に数値の上昇が見られた層です。これらの参加者は本研修以外にも活動の場を持っているため、スキルが研修期間中に上がったと予想されます。またＨさんのように１の自己評価が多い参加者にとっては座学とワークショップの受講のみでも研修効果が高いことが読み取れます。一般的な座学とワークショップという研修がある一定の効果を持っていることが示されています。

表４）社会教育に対する意識調査（G-I）

	G			H			I		
1(1)	20代			30代			30代		
1(2)	ある			ある			ある		
1(3)	ない			ある			ある		
調査	事前	中間	学習	事前	中間	学習	事前	中間	学習
2(1)	4	4	4	1	2	3	3	4	4
2(2)	4	5	4	2	2	3	2	4	4
2(3)	3	5	4	3	3	3	3	4	4
2(4)	4	4	4	2	2	3	3	4	4
2(5)	3	5	4	4	4	4	3	4	4
2(6)	5	5	3	2	2	3	2	4	4
2(7)	5	5	3	2	2	3	2	4	4
2(8)	4	4	3	4	4	3	3	4	4
2(9)	3	5	2	3	3	3	3	4	4
2(10	4	4	2	3	3	4	3	4	4
2(11	4	4	3	3	3	3	3	4	4
2(12	4	5	3	3	3	4	3	4	4
2(13	4	4	4	2	2	3	3	4	4
2(14	4	4	3	2	2	3	3	4	4
2(15	5	5	2	1	3	4	3	4	4
2(16	4	4	3	1	2	3	3	4	4
2(17	4	5	2	3	3	4	3	4	4
2(18	2	4	2	4	4	4	3	4	4
2(19	2	2	2	3	3	3	3	4	4
2(20	5	5	4	4	5	4	3	4	4
平均	3.85	4.4	3.05	2.6	2.85	3.35	2.85	4	4

最後に表５が表しているＪ〜Ｍの参加者層は、第１回から第４回までのファシリテーター養成講座に参加をして、その後のファシリテーション実習にも参加した層です。全員に数値の上昇項目を示す網かけが入っており、実際に指導経験をつむことによって、各人が多様な項目に関して技術と自信を深めていることが読み取れます。ある程度経験をしている項目の数値３や４が上昇することはもちろん、これまであまり経験をしていなかった項目の数値１や２が大きく上昇することは実習による顕著な成果だと言えます。

表５）社会教育に対する意識調査（J-M）

	J				K				L				M		
1(1)	30代				20代				20代				40代		
1(2)	ある				ある				ある				ない		
1(3)	ある				ない				ない				ない		
調査	事前	中間	事後	学習	事前	中間	事後	学習	事前	中間	事後	学習	中間	事後	学習
2(1)	3	3	4	4	1	3	3	2	4	4	4	3	4	5	4
2(2)	3	3	4	3	1	2	2	3	4	4	5	3	4	4	4
2(3)	4	4	4	3	3	3	3	2	4	4	4	3	5	5	4
2(4)	4	4	4	4	3	3	3	4	4	4	5	4	3	4	3
2(5)	3	3	3	3	2	3	3	4	4	4	5	4	3	3	4
2(6)	4	4	4	3	1	2	3	3	4	4	4	3	3	3	4
2(7)	4	4	4	3	3	3	3	2	4	4	4	3	3	3	4
2(8)	3	3	4	4	2	3	3	3	4	4	4	4	2	2	3
2(9)	4	4	4	3	2.5	3	3	3	4	4	4	4	1	2	4
2(10	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	3	3	4
2(11	3	3	4	3	2.5	3	3	3	4	4	5	3	3	3	4
2(12	3	3	4	4	3	3	3	3	4	4	4	4	3	3	3
2(13	4	4	4	3	2.5	3	3	3	4	4	4	3	2	3	4
2(14	3	3	4	3	3	3	3	4	4	4	5	4	2	2	3
2(15	3	3	4	4	3	3	3	4	4	4	5	4	3	3	4
2(16	3	3	4	4	3	3	3	3	4	4	5	3	3	3	4
2(17	3	3	4	4	3	3	3	3	4	4	5	4	3	3	4
2(18	3	3	3	4	2.5	3	3	3	4	4	4	4	3	3	4
2(19	4	4	4	4	3	3	3	2	4	4	5	3	3	3	4
2(20	4	4	4	4	3	3	3	3	4	4	5	4	2	3	4
平均	3.4	3.4	3.85	3.5	2.5	2.9	2.95	3.05	4	4	4.5	3.55	2.9	3.15	3.8

３．ふりかえりシート集計結果

ファシリテーター養成講座の各回で実施したふりかえりシートの内容から読み解くことのできることを定性的に分析しました。根拠となる文章に網かけをしました。

第１回ふりかえりシートより

１）今回のワークショップを通じて、あなたが学んだことは

第１回目で取扱ったテーマ「根本思想」に代表されるように、ファシリテーターのスタンスや在り方に対して感じたり学んだりという感想が見られる一方、テクニックやセオリーといった基礎的な型を知りたいニーズが高いことも読み取れます。

・幅広い場面に対応できるテクニック。(例）相手に自分の意見と”伝える”ことのノウハウ

・ワークショップの流れにおける臨機応変な対応。

・ファシリテーターのいくつかの役割を講義から、模範づくりに関しても体験することができました。グループワークを円滑に行うために小技は、実際使っていこうと思います。

・ファシリテーターとは何者なのか。ワークショップの意味がわかりました。

・自分の言動・行動の活動などについて、根本思想が何なのか考えて整理してみる事も必要だと思いました。

・伝えるだけではなく、伝わる為には、グダグダと話をしていてはダメだと改めて感じました。自分に「こうだから、こう考えて、こんなことしている。」があるみたいに、人の話を聞く時も、表面的なことにとらわれすぎない方がおもしろい。

・ファシリテーターの立場や役割が少し理解できました。ファシリテーターとはやり方に決まりやルールがあるわけでなく、様々な形のファシリテーターが存在することについて学びました。

・初対面の方々ばかりだったので、いろいろな人と話すことで人と話して学びあう楽しさを知りました。みんなファシリテーターみたいな状況だと話しやすい。

・話を伝わりやすくするために、根本に戻ること。でも順序立てることは自分には難しい。

・言われて気づくことがあったなぁ・・・と！！（自分の深い部分)

・「ファシリテーター」、「役割」とか、型やセオリー。

・普段の何気ない話し方や聞き方。コミュニケーションのスタンス。

・”ファシリテーター”という役割について知ることによって、人が集まった場をすすめる時の視点のポイントを学ぶことができました。今後の自分が人の集まる場に参加したときに生かせる

と思います。

・ファシリテーターをする例として、どのようなことに注意したらよいのか、実践を通した形でファシリテーターのふぁの字を知らなかったのにファシリテーターについて幅広く学ぶことができました。また、ワークショップを双方向形式にするために、さまざまなしかけが有効であることを学びました。

・ワークショップを組み立てる際に進行中に気を付けるポイント。

・様々な年配層やグループを対照としたワークショップで「伝える」ため「考えてもらう」ために必要なこととして「共通点」を押えておくは大切だと思いました。

２）今後さらに学びたいと思ったことは

場を開いて閉じるという一連のワークショップの流れの理論における、場を閉じていく部分に対する手法や考え方に対して学んでいきたいという意見が多く挙げられました。また「雰囲気づくり」という言葉に代表されるように、ファシリテーターのスタンスやプロセスの組み立て方を学びたいというニーズが高いことが読み取れます。

・気分がのらない時、つらいときの発送の転換方法。これをいかに平和学習に生かしていくか。

・順調にいかない時、どうするのかを、何となくじゃなくて、冷静に考えられるようにしたいです。（現在）感覚的→（今後）論理的？

・適切な介入　※混沌状態において議論の方向がそれたときの修正。どこまで介入するのか？

・混とんからの脱し方。ファシリテーターだったら何ができるのかな？と思いました。

・自分の思いや考えを上手に整理するやり方、まとめ方など

・要約の仕方。

・実際にファシリテーターを行い、ある程度丁寧な支持を受けながらやりたい。また、今日同様多くの手法を学んでいきたいと思いました。

・雰囲気づくり。空気を読む力。

・最初の雰囲気づくり。

・人に影響がない（気がちらない。）態度とか。（学びたいというか、身につけたい。）

・中立的な立場に、（グループみんなに）機能的に接したい。

・参加者一人ひとりが生かされる場づくりのポイントを学びたいと思いました。

・ファシリテーターとしての、行動や考え方、物の見方・・・etc の技術面や心理面。

・ファシリテーターとして実践したい。→フィードバック。

・臨機応変なプログラムの立てかた。

３）その他、気がついたこと、感じたことをメモしてください

最初の講座なので、はじめての出会いへの緊張感や刺激の心地よさということを表す言葉が繰り返し表れています。始めてこのような場を体験した参加者にも安心感を与えることができたようです。

・今日は初回で、初対面の方々ばかりということで、緊張や戸惑う場面もかなりありましたが、予想以上にスムーズに皆さんと打ちとけることができホッとしています。

・どんなファシリテーターになれるかなと思ってわくわくします。

・私は今回と 10 月２日の講座にしか出ることができませんが、すべての講座を受けたら、とても実践的で役に立つ学びを得ることができると感じました。ファシリテーターとは、机上で学んでできることではなく、繰り返しの実践が大切だと思いました。

・話をしていて、思ったこと。みんな意見を言うのか上手だなと思いました。

・意識が高い人が沢山いて刺激をもらえて良かったです。改めて”学ぶこと”の大きさを感じました。

・自分が集団の中で何気なくやっている行動を客観点に見直すきっかけになりました。

・事前調査を午前中配られた時、正直質問の意味がわからない事項が多く。無知な状態であったのですが、ワークショップを終えるころには理解が深まっていたため、事前調査の質問事項がいかに重要なことかというのを感じました。非常に勉強になります。良い刺激を頂きました。

第２回ふりかえりシートより

１）今回のワークショップを通じて、あなたが学んだことは

第２回目にしてはじめて、具体的なワークショップのアクティビティを扱ったためか、全体的に内容や具体的な手法対してのコメントが目立ちました。参加者にとっても興味関心の高い「平和」というキーワードを内容にしたため、その内容に強くこだわる傾向があります。第１回第２回は全体的なオリエンテーションの要素も強いため適切なプロセスとも言えますが、ある程度経験値の高い参加者も「場の回し方」の方に強く意識が回らない場面もあったのではないかと推測できます。

・日常生活と”平和”の関連性。距離感。

・お互い（参加者同士）の平和意見、平和学習観。

・「ヒロシマ」の平和学習につていの見方、また問題点。

・「平和」と「自分」をつかめるステップ。

・目的と目標を考えること。１つのワークショップでも、ボランティアのような事業でも人生設計でも、やり方にしばられるのではなくて目標を意識していきたい。行きづまったら自分の根本に立ち返ってみたいです。

・「ピースクリエイターになろう」が何を目的としてやっているのか、去年はわからなかったが、意図開きでわかりました。

・新しい学びのスタイルの平和学習。

・午前のヒロシマの平和学習についてのワークショップ。予想はしていましたが否定的なものが多かったです。それではどのような学びが有効なのかなかなかイメージが明確にできませんでした・・・。午後のピースクリエイターの手法はたいへん参考になりました。世論調査の技法などすぐに使えると思います。

・ひとつの議題を”見える化”することで、自分の意見をフォーカスしていくこと。

・「私+○＝平和」を導き出すことで、より自分の深層真理に迫ることができました。

・「自分の人生に前向きでないと、社会問題に前向きになる人をつくれない」→この言葉が印象的でした。

・考え方、捉え方は人それぞれだなと感じました。

・「平和」という漠然とした問題に取り込むことで物の見方の幅が広がりました。

・平和学習を進めていくためのファシリテーター養成も自然体験学習のファシリテーター養成も同じ手法で進めていくことができるなと痛感し、また安心しました。

・お互いの意見を聞きながら学んだり考えたりすることは中高生でも成人でも同じだと思いました。

・手法として「新聞を使ったワークショップは平和を考えるために効果のあるものだと思いました。

・ファシリテーターとして配慮するポイントと配慮の仕方

・ウォーミングアップなどのネタ

・マッピングなどの手法

・プログラム作りにおける時間配分、テキスト選び

・ワークショップにおける個々のプログラムの意図やファシリテーターとしての留意点が参考になりました。

・この講座に自主的に参加し、積極的に行動しようとしている人たち（特に若い人たち）が多いことを知ってすごいと思いました。昨日参加していないので分かりませんがその方々がなぜこういった活動に参加したいと思ったのか知りたいです。→そういう人たちを増やすのが平和教育の目的ですから・・・

・ファシリテーションの事ではないですが、午前のセッションがいろいろな意見が聞けて良か

ったです。あのまま続けてでは今後はどんなものにしたら良い面は伸ばし、悪い面は変えていけるのかのアイデア出しなどができたら面白かった様に思います。

・平和学習にうんざりしている人が多かったということ。先生も決まった平和学習をすることに疑問を持っているということ。ファシリテーターは参加者の議論の内容とその内容が出てくるプロセスの２つを見る必要があること。

・新聞ワークで自分が「何を平和な状態だと思っているのか」が確認できました。

・ワークそのものに集中できて、裏の意図が透けて見えないワークは面白いし効果が高いと思いました。余計なことを考えずに無意識にできるから？

・テーマ（今日なら平和）にいきなり取り組む場合、自分自身のこととからめて想像する方が参加者にとっては分かりやすいと思いました。

･平和学習にもっと目標意識がほしい。今は足りない。

２）今後さらに学びたいと思ったことは

マッピングのような具体的な手法を取扱ったため、そのような手法を使いこなしたいというニーズが高いことが読み取れます。また話が拡散しすぎたときの関わり方やプロセスの読み取り方といったファシリテーターとして必要な側面にも視野が広がっているようです。

・一人一人がピースクリエイターではあるが、action としてもう少し奥深く掘り下げた形について学んでみたいです。

・ねらっていた目標と、参加者自体が自分で持った目標のズレ→（参加者として）もやもや感？

・関わり、話がそれた時＋盛り上がってしまった時→どうしよう！？

・今回のプログラム（体験）の現場。

・学校、平和公園、被爆者（関係者）が求めている平和学習。

・マッピング。何度やっても苦手。うまく整理できません。

・平和について、自分の考えをさらに深めようと思いました。また、マッピングなどのワークショップ方法を多く学んでいきたいと思いました。

・平和公園の碑石めぐりの中に短時間でできるワーク（５分くらいのもの）をいくつか考案したいと思っています。

・世論調査の場面で、より参加者の緊張をほぐす質問の仕方など。

・上手な板書の方法。

･ファシリテーターの心理的側面。

・時間を有効に使うプログラム手法。

・本日のワークショップはどれもすばらしい内容のものでした。もう 10～15 分ずつ時間がある

といいなと思うものばかりでした。効率を高めながらしかも短時間で意図するものの内容を取り扱うのは大変ですが、修学旅行などで時間の限られた相手だと効率化も必要なのでそこを学んでいきたいです。

・意見が出ない　主体性がない　など　⇒どのように対処？

・ファシリテーターとしての演習。

・年令段階ごとのプログラム→午後の新聞ワークは中学年３年位以上〜でないと難しい小学年高〜中１だとどんな内容がふさわしいか。

・90 分だけのプログラムではもったいない。事前に行ったらよい活動や日常につないでいけるフォローアップのプログラムを是非知りたいです。

・拡散収束が上手に行く手法声のかけ方があれば教えて欲しいです。

・参加者が話し合いをはじめると、内容かプロセスかどっちか１つしか見られなくなっていた気がする。同時進行できるよう心がけたいです。

・マッピングとか手法の使い方。やってみたけど今、使えてなかった気がしたので。ワークの作り方にもっと重点をおいて学びたいです。

３）その他、気がついたこと、感じたことをメモしてください

様々な意見交換が多様な参加者の中でできることが有意義という意見が多く寄せられました。また中立性という言葉に表れるように、ファシリテーターの立ち位置に関して引き続き興味関心が深い参加者も複数います。しかしながら、ファシリテーションに関してぼんやり、もやもやとした印象を持っている参加者もいるようです。

・新聞記事（しかも当日）を扱うのは大変いいと思いましたが、平和な記事とそうでない記事で各人が判断してグループの人を見てそれで終わりだったので、あと一歩何か有効活用できればいいなと思いました。

・中立性は、意識していても難しい。

・ちょっとした表情が言葉の間など自分で意識しづらいようなことも大きな影響を与えるかもしれません。

・平和や平和学習について似たような体験、疑問を持っている人が多いことを知れてよかったです。

・平和について考えた時、幸せなことを思いうかべました。どうやったら、自分もまわりも幸せなのかを考えました。

・私は「平和」と「私」を紙面上でつなげてみましたが、まだ少し遠く感じてしまいます。他の人の後ろを見て、また知らない「平和」の面が見えてきたりして、自分の世界のせまさや未

熟さを感じ、今の私にはやはり難しい。

・グループワーク大好きです。参加されたみなさん、個人の意見をたくさん持っているから聞いているだけでも発見が多く、またやりたいと思います。

･昨日今日で、様々なことを考え、意見を述べたので、疲労感もありますが、こうして積み重ねていくことで、上手なファシリテーターの役割が身についていくと思いました。

・まだまだ自分には努力が足りないなと！ 様々な立場や職種の人が集まって研修することはとても景義深いことだと思う研修の一場聞だけでなく、ネット上などで議論したり、意見交換できる場を作ってこの会を広げていくことができたらいいと思います。

・それぞれのワークで様々な意見、様々な展開があっておもしろい。

・広島の子ども達は”もういい！やりたくない”感が強いのだと改めて感じました。とすればこれまでの”被爆の実相”を中心とした学習は見直すべきなのか・・・小学生段階で必要なのか？？やりすぎなのか？？などいつからすればよいのか自分の中で混とんとしてきました。

・学校でプログラムする中で極端に暴力的、差別的、否定的な発言をする生徒がいた場合ファシリテーターとしてはそれでも中立性を保って”なるほど”と認めるべきなのでしょうか。

・ファシリテートすることについてぼんやり身に付いている状態の人が多いように思いました。もっと手法を学んだりしっかり実践する場が全員にあるといいのかなという気がしました。

・講座のメインテーマが平和なのかファシリテーションなのか、しぼりきれない印象。

・午後のワークすごく面白かったです。新聞ワーク面白いやり方だと思いました。

・考えたり意見を出したりすることに入れない人ってどう拾ったらいいのかが課題でした。

第３回ふりかえりシートより

1）今回のワークショップを通じて、あなたが学んだことは

第３回はワークショップの模擬実習を参加者間で行なったためか、「難しい」というキーワードが多く表れました。実際にファシリテーターとなって実施してみてはじめて分かる難しさに直面した参加者もいました。また、ねらいが価値誘導になっていないか混乱している様子も読み取れます。

・プログラムを進める難しさ→プログラムを受けるのは楽しい、色々学んだ気持ちになれるけど、進めるとなると、どうすればうまく伝わるのか、また、伝わっているのか、学習者の学びになっているのかどうかが、よく分からないから。

・ファシリテーターが、納得してやることが大切だと思いました。でも、モヤモヤも大事。モヤモヤがあるからこそ、考えることにつながるのでしょうか。

・きちんと伝わっているのかを確認しないとダメ。
・「ねらい」を形にして伝える難しさ。
・ワークショップの手順が具体的に分かりました。ねらいどおりの結論にもっていくことはなかなか難しい。
・ワークショップを進行する上で大切なこと。（それぞれが考えたことが大切など）
・ワークショップではすごく身近なことから国際的なことまで考えることができる。
・やり方によって、導き出される結果というものが大きく違ってくるものだなと、いつもの事ながら感じました。
・いろんなワークショップがあるなあ。チームでファシリテーションしている時の状況判断や対応。
・ねらい達成のために、最後まで気が抜けない。参加者の気持ちでやること、気づけることがあります。
・ワークショップ難しい！！　テーマに近づいたと思ったら離れていくし、やっていてもやもやしました。けど、いろんな意見が出たりして、面白かったです。
・距離感とタイミングストーリーが決まっていて、分かっていたとしても司会（ファシリテーション）することはとても難しいと思いました。問や質問の仕方、あいづち、様々な要素が必要なことを学びました。
・JOCA の教材は知っていましたが実際に受ける側になったのは初めてで新しい視点で勉強できました。実習を入れた点はとてもよかったと思います。「ストーリー」に「ねらい」をつけることの大切さも分かりました。
・話すこと、話さないことを決めておくことでねらいからずれないように。
・準備って大事。
・紙に質問を書くとか、ちょっとしたことでぐっと親切になること。
・フィードバックがありがたい。

２）今後さらに学びたいと思ったことは

実際にファシリテーターの役になって、いかに実践することが大切なのか、そしてそこで得られるフィードバックの重要性について理解を深めた参加者が多い印象です。また、今回の研修では「場の回し方」を主に扱っているのですが、自然ともう一つのファシリテーターとして重要な視点である「場の作り方」に対しても意識が向かっている様子が窺えます。ねらいを立て、それに対してどのように場を回していくのかという視点に立っている参加者もいます。

・プログラムを進めることについて。（実習）→今日の体験だけでは足りないと思ったので、何回も実際にやってみて、それに対しての意見（良かったこと、改善点）がもらえるとうれしいです。

・ねらいに沿ったプログラム作り？（ねらい→ねらいを理解したうえで進めるってコト大事！）

・話す、話さないをねらいに合わせて使いわける。

・「ねらい」（思い）を、より伝える相手に届ける事ができるか！

・グループ議論を活発にする声かけ方法。

・ワークショップの他のメニューやアレンジの仕方（年令などに応じて）今日のワークショップで「平等」や「生き方」について視点がボケたとしたら、どこをどう改善すべきだったのか知りたい。

・ワークショップをもっと体験する、進行する。

・セネガル、モルティブ、ルーマニアについて興味を持ちました。

・ワークショップの進行役はどのようにしたら、よりよい考えや学びを引き出すことができるのか。

・ねらいにより近づく為の工夫はどんなものがあるのでしょうか？

・ファシリテーションを実習するときの与件の出し方と段取り。（指導者目線で）台本以外や台本に足りない部分の言葉かけ。←（自分の事に感じてもらう）

・落とし込み方、まとめる力、どうやったら参加者にまとまった納得感が与えられるのか。そもそも、まとまった感は必要なのか？

・テーマに近づいた時のその意見のあつかい方。

・介入の方法。

・適切な距離感（話していくことで近づく距離感。）

・ファシリテーションは場を重ねることも大事ですが、要素・ポイントを教更に学びたいと思いました。教材があればなんとかできるかなと思っていましたが、実際はとても難しいという点に気づけた点はとても大きかったです。

・肩の力の抜き方。

・いつ介入するのか、ずれている時、ぼやけそうな時。

３）その他、気がついたこと、感じたことをメモしてください

密度が濃く楽しめたというコメントもある反面、プログラムを読み込んでその意図を読み解いて、かつ場を回すということの難しさを感じたコメントが多く見られました。実際のワークショップの場で、自らの価値観と参加者間で発生したことが異なったときに混乱する様子が見られます。

・実習後にみんなで話し合う（ふり返る）時間があるとうれしいです。

・セネガルのプログラムの最後のまとめは、ねらいに沿っているのでしょうか？セネガルのいいところ日本のいいところを比べてしまう。日本はダメ・・・って思ってしまった・・・。日本のいいところが出にくい、唐突感がありました。

・「これをやって、このねらいについて考えてもらえるの？」って思ってやると、伝わらない。

・誘導することなく伝えるのは難しい

・教えたり伝えていく人は「すごいな」と！

・学校の授業で行う時には「ねらいの達成」が求められます。ファシリテーターが誘導したり押しつけたりすることなく「平等」や「生き方」について参加者が個々考えを深めるためには、教材や発問等指導の流れがとても重要だと思います。

・今回は３つのワークショップを様々な角度から体感することができ、密度が濃かったです。みなさんと意見を共有しながら進めていくことがとても楽しかったです。

・青年海外協力隊の方がやっている、環境学習やワークショップが気になる、知りたい。参加者に合ったワークショップだなと思う。次回の川島さんの話で、今までやってきたことを、うまく整理できるのでは。

・発表を聞いた人がねらいについて考えていました。考えさせる余裕があったことでくやしい。もっとテーマ気にせず、考えられるような雰囲気が欲しい！！

・いい雰囲気の中での研修会だったので、参加していて楽しめました。時間が短く感じられました。ありがとうございました。

・ねらいは大事ですが、ワークショップの参加者の出す答えは１つでなくてもいいなら何でもありになりそう。答え１つでなくてもいいというのはそうだけど、やっぱりねらっていたところを考えてもらえたのか気になってしまう。

・他の国の人はこんなつらい状況でもがんばってる！というようなこと見られると、だからお前はもっとがんばれ、もっと感謝しろというメッセージ、何だか恵まれていること＝悪いというように感じてしまう自分もいます。それは私だけではないかもしれなくて、素直にじゃあ自分はどうだろうとふりかえるのは難しい。

・どこに立ってようか、どんな姿勢でいようかその意見にも平等でいられるのかわからない。

第４回ふりかえりシートより

１）私が気づいたのは

これまで漠然としていたこと（アイスブレイクなど）の本来の価値に気づいたというコメントが多い結果となりました。コンテントとプロセスの視点をしっかりと持ちたいという気持ちを持っている参加者も多いことが分かります。

・平和教育も環境教育も教科教育も大切なことは同じだということです。
・アイスブレイキングをただの固さほぐしにのみ使うのはもったいないということです。
・事業の受付～昼食の重要性を再認識しました。
・ファシリテーションはいつも行っていますが、意識していなかったので、できていることできないことを気づけていなかったこと。
・ワークショップには精密な計画が必要だということ。もっと行き当たりばったり的なものだと思っていました。
・アイスブレイキングの効果。
・会社でも、ファシリテーションは大切。前の会社のやり方だけをマネして、ポテンシャルにないことをやろうとしても、うまくいかないのは当たり前。
・２日間あると、２日目に１日目の疑問がとける（・でも、あたらしい疑問もできる）
・アイスブレイキング＆ふりかえリシートの大切さ（研修などをしてふりかえりシートをして記入することが多いがあまり有効に機能してないように思いました。）
・学びを系統立てる体験が高校で必要だと思いました。

２）私が学んだのは

きちんと体系的な理論を学ぶことができたという意見が多く見られました。特にアイスブレイクに関する記述が多く、アイスブレイクの本来の目的に気づいた参加者が多いことが印象的です。第３回のふりかえり同様、このように理論立てて理解するということと、それができるようになるということは別の話で、文字だけの学びにならないよう気をつける必要性があります。

・バラバラに言われていることを理論を自分の枠で再構成することの大切さです。
・コンテンツだけにとらわれず、グループプロセスにしっかり目を向けることが大切ということです。
・４つの懸念＝確かに！
・ファシリテーションの意義。（体系的な話を聞けたのがとてもよかったです。）ワークショッ

プで起こっていることをショハリの窓で説明できること。

・規範が肝だと言うこと。アイスブレイクを甘く見ていました。意見が出ないなどの現場は意見しちゃいけないという暗闇のルールを許している状況なのですね。

・「つかみ」「オリエンテーション」「アイスブレイキング」のあたりのことはとても「なるほど！」という感じでした。子どもが相手だったりすると「やりたい」気持ちが特に大事だろうな。

・ファシリテーターに求められる資質の"こころのIQ" 実際してみて、本当にそのとおりだ！と思いました。

・アイスブレイクにも、規範づくりの要素を取り入れる。名前を呼ぶとかだけではないのですね。

・いつも自分がやっていること、やったことがあることに結びつけていければ、抽象的なことも理解しやすいと思いました。

・アイスブレイクが参加者の不安をとり除いて、規範を作ってやる大事な場なのだと分かりました。

・ワークショップにはまちづくり系のように形をはっきり出すものと教育系のように自己あるいはグループ、学校まとめなどのようなレベルで記録したり共有したりするものでよいという違いがあること。

・ていねいに進行するコト。

３）私が驚いたのは

比較的わかりにくいことがゲストファシリテーターによってうまく整理されたことに驚く参加者多いことを示しています。

・いろいろな理論を川島先生がとてもうまくつないで話されたこと。

・現に活躍中のファシリテーターの中にもアイスブレイキングをうまく使えていなかったり、コンテンツにしか目が向いてない人が案外多いということです。

・グループプロセスの話がファシリテーターの重要な役割であること。（再認識しました。）

・川島さんの整理のすばらしさ。

・ファシリテーションという掴みにくいことが系統立てて整理できるということ。

・川島さんの整理力。

４）私がうれしかったのは

第１回目から引き続き参加者の中での安心感が醸成されている様子が窺えます。

・大学生をはじめ、いろいろな人と知り合い、人となりを知ることができたことです。
・あまり猜疑心を持たずにこの場にいること。
・P 機能と M 機能の違い。
・ワークショップをまちづくり系、教育系と必要に応じて比較しながら証明して頂き、頭の中が整理しやすかったです。
・参加者に恵まれていること。

５）私ががっかりしたのは

プロセス管理が十分にできていないという反省が見られます。
・自分がグループプロセスの管理がこれまでやってこなかったことに気づいたこと。
・私はよく「つかみ」で失敗している。
・コンテンツが上手くいかないと不安になって、プロセスを感じられなくなっているのではないかということ。
・理論は正論がゆえに分かりにくくなること。

６）私にとって必要だと分かったのは

課題として場に関わるための様々な力を自己分析している様子が窺えます。

・与えられた仕事に少しでも前向きに取り組もうとする姿勢。
・ワークショップの実施によって一体何がどう変わったのかということをきちんと見極める力です。
・質問を考えること。
・メンバーの隠れた感情の動きを読み取る能力。
・完ぺきな準備と頭の中の整理。
・ 導入の段階でどのようなアイスブレイキングをするのかにより雰囲気も変わり、その後の流れを作る最大の要素となっていること。
・ 先走らない。放置しすぎない。
・ 基本的なことを頭に入れてやってみること。
・感じること。
・本チームの強み、弱みの再整理。

7）私がこれから実行しようと決めたことは

意識改革から具体的な行動まで様々な行動が挙げられています。

・与えられた仕事を楽しもうとしたり、意義を感じたりする努力すること。
・これからはコンテンツだけでなくプロセスにも着目して実演していきたいです。
・今日学んだことを実際自分がやってきた事例に合わせてシュミレーションすること。
・仕事において事業計画の場合においてのみならず普段のミーティングなどにも使えそうなテクニック/考え方がいろいろあったので実践したいです。
・先走らない。放置しすぎない。
・どんなコンテンツになるのか想定するより、どんなプロセスになりそうか想定して準備しておくこと。
・出張講座のワークショップとして学校に出向くにあたっては、学校側のニーズにこたえることが大切です。協力してワークショップを行うという意識をもつようにしたいです。
・休日イベントをつくること。
・学校カリュキュラムの読み込み。

8）その他、気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは

忘れないようにしたいです。

こころの IQ を高めるために普段心がけていることはありますか？

今日のノートはちゃんと保管する。

まとめ会　達成点・課題シートより

1）今年度のカリキュラムを通じて、あなたが達成したことは？

指導実習まで行った人は、座学とワークショップ体験を含めて自らの力量を把握することができたようです。また、座学とワークショップ体験のみを受講した人は、考え方が整理され、新たな視点を得たという声があります。定量評価にも現れていましたが、各個人でファシリテーションに関して学んだ実感を持っていると読み取れます。

・ファシリテーションの進め方を知ることができました。
・平和学習に関するワークショップに限らず、ワークショップの理論がある程度習得できました。
・実際に児童、学生に向けて平和について考えるワークショップの実習を行うことができました。
・実体験から自身の現状と課題も含めて学ぶことができました。
・年齢層別のワークショップの在り方について考えることができました。
・若い世代の人が平和学習プログラムとしてワークショップを実施したときの小・中学生の反応を知ることができました。
・川島さんの講義を通じてワークショップについて、自分の中で一定の体系的整理をすることができました。
・川島さんの講義が大変勉強になりました。コンテンツとプロセスを分けて考える視点を得ることができました。
・視点、視野が広がりました。
・ものごとに取り組む際には留意すべき点の再認識。
・平和教育に参画したこと。
・新しい分野にチャレンジする中で、場を作り、回す自分の力量を感じ知ることができました。
・「平和」でつながる多くの人との出会い、つながりができました。
・下見が少ないと、プログラムを実施しても、何か違うと思いました。はっきりねらいが見えなくてもやもやしながらやっていました。価値到達型の行為なのではないかと勘違いする面もありました。今日話しをしている中で、ようやくねらいが見えてきた点もありました。
・ワークショップ全体の流れについて大枠を把握するとともに、細かな技術的な部分、進行における注意点なども知ることができました。
・得たことを実際に実施する機会（石内、立命館）があったことで、知識を体験として落とし込むことができました。（もっと回数を重ねる必要がありますが）

2）今年度のカリキュラムを通じて、あなたが課題だと思ったことは？

個人的な技術面での課題から全体の指導者養成に関する枠組みまで幅広い意見が出されました。指導者の養成とそれを活用する仕組みを合わせて開発していくことが重要だという総意が感じられます。

・ファシリテーションを実際に一人ではやっていないことです。
・学校に期待される講座運営マニュアルの作成と、十分なスキルを持ったファシリテーターの養成が課題だと思います。
・いかに参加者、受講者（児童・学生）の思考を深める発問を行うか。
・話しかけ、語りかける技術（姿勢)。
・成長に応じた対象（または学年）別の原爆、平和学習プログラムの開発が必要だと思います。まず教育委員会が行うべきことだと考えますが、こうした体系化ができた暁には、これに沿った様々なプログラムがNPOなど公以外の組織からもメニュー提供がされると「官制」ではない「市民の取り組み」としての平和への取り組みの素地ができると思います。
・本日の議論の中でもありましたが、学校の中に入っていくためには教員の賛同者が必要です。講座にもっと現場教員に参加してもらえるようにする工夫も必要だと思いました。
・来年度以降も続けることが大切だと思います。
・ファシリテーターを養成することはできます。しかし、ファシリテーターが社会に参画すること、社会で活躍することは難しい。コーディネーションも同じく。どの分野でも似たような課題というか壁を感じます。
・指導者の増員が必要だと思います。(参加者の人数、属性、年齢の多様性は、そのまま実施できるプログラムの多様性、時間帯等にも影響します。)
・もっと実践ー振り返りー　次回以降への活用のサイクルを重ねる必要があると思います。

3）その他、気がついたこと、感じたことをメモしてください。

指導者間で意見交換ができることが有意義という意見がいくつかありました。また今回のカリキュラムに対しての一定の評価をしながら、プログラム開発や運営体制といった今後の課題にも目を向け、前向きな視点を持っていることが推察されます。

・達成度について、どう評価するかが大切だと思います。また、今後についてファシリテーターの活用方法やカリキュラムの実施体制について発展させていくことが大切だと思いました。
・話し合いは面白いです。皆さんの意見を聞くことで学ぶことができました。
・みなさんと情報交換できる機会に深く感謝します。今後とも学びと体験を深めていきたいと

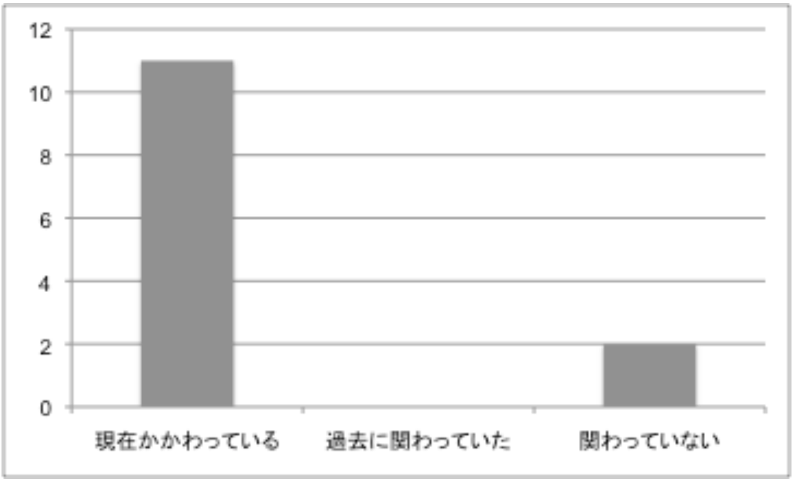
思います。
・ボランティアを養成し学校現場で実際に行うことは大変だったと思います。平和学習のワークショップを実施するためのプログラム開発は大変だと思うのですが、興味深いことであり、未来に向けて大切なことだと思います。
・今日のまとめの会がとても興味深く大変勉強になりました。
・広島をファシリテーターの聖地にする計画を実現したいものです。
・今回の事業は平和教育の新たな一歩目としては、すごく大きな一歩だったと感じています。来年度は二歩面を歩みましょう。
・平和学習の実情について詳しくなりました。
・被爆体験の継承は被爆者の方々の高齢化にともない限界を迎えつつある、と言いつつもまだまだそれがリアルになっていない（危機感を感じていない）行政（資料館）側のスタンスが前提としてあると思われます。
・知識教育（過去について）は行政、ワークショップ（未来のために）はNPOという実施の棲み分けができ、かつそれを全体としてしっかりとコーディネートできるとベストだと思いました。
・今回のような短めの実施期限で、ある程度の成果を出すには、すでに活動をしている方の参加は助かるものの、より広く多くの人を取り込むとよいと感じました。

４．市民参画アンケート集計結果

参加者に対して市民参画に関するアンケート（参考資料参照）を行なった結果を以下のように集計しました（母数 13)。１～３）までの項目では定量的評価、４～５）では定性的評価を行いました。

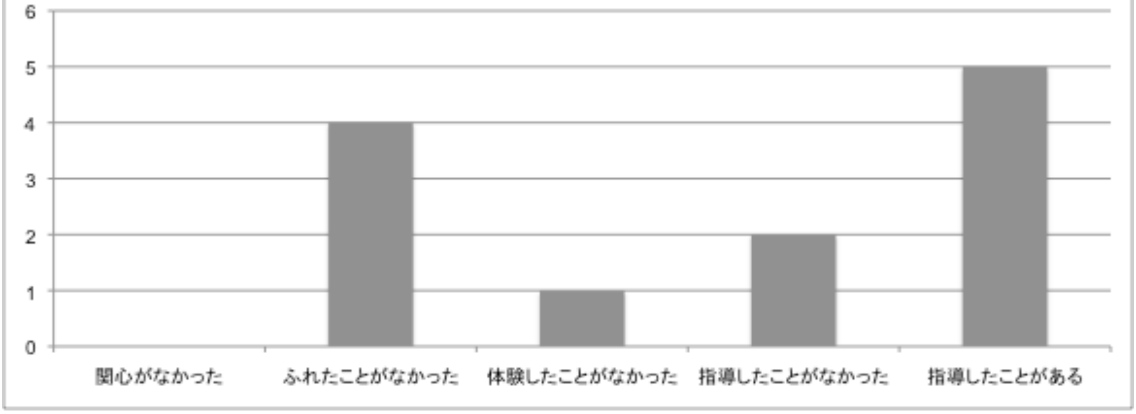
１）現在の市民活動やボランティア活動に関わりについて

今回集まった参加者の多くは既に何らかの市民活動に携わっている方でした。これは無回答の参加者についても同様で傾向は変らないと推測します。



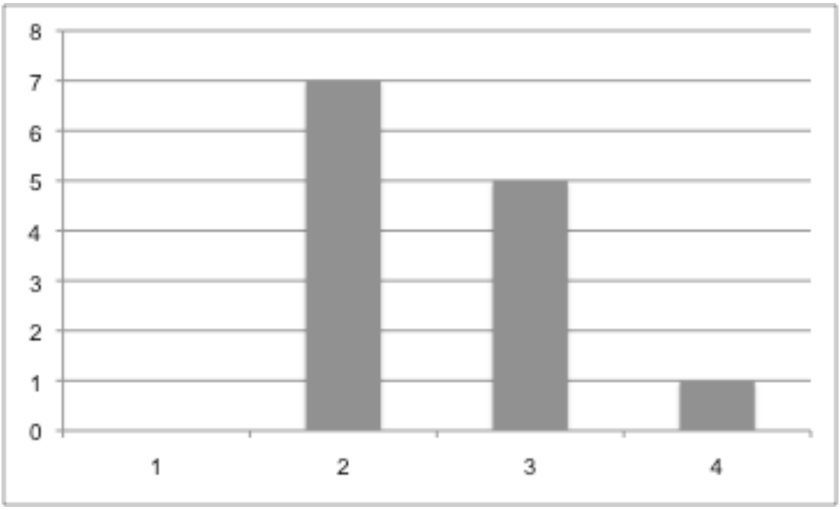
２）市民活動やボランティア活動における参加型学習（ワークショップ）やファシリテーションの取り組みに関して

今回の参加者は何らかの関心がある方でした。比較的経験の少ない方から、指導経験のある方までその中でも多様な関心の参加者が集まったことが窺える結果となりました。



3）市民活動やボランティア活動における現在の達成度（自己評価）に関して

現状の達成度に満足していない参加者が多いことが分かりました。向上心の高い集団と逆に捕らえることもできると考えます。



←低い　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　高い→

4）大切だと感じる点

自分や自己実現といった言葉に代表されるように自らの能力を高めるという視点から、社会への影響や支援といったそれをどのように社会の中で活かしていくのかという視点に広がっていることが窺えます。また、ファシリテーター養成講座第1回でも取扱った「思いの整理」につながる「思い」や「目的」という言葉も複数挙げられました。実際の活動以前に、市民活動に向き合う指導者としての姿勢に興味関心が高いことが想定されます。

・自分をもっと高めないとと思いました。

・人とのコミュニケーション。話す力・聞く力・笑顔。

・自己実現と社会への影響。

・子どもたちと関わることが多いのですが、子どもたちの成長（特に心の成長）につながるように心がけています。

・自分の思いや考えを押しつけるのではなく、参加者の思いや実態に合わせてうまく支援すること。

・「考える」こと。

・感じる力。

・目的。

・「思いをカタチに。」

・思い。

・「想い」～社会貢献。

・自主性　公の視点。

5）課題だと感じる点

「活動と活動をつなげる動き」という言葉に代表されるように、各個人・団体が個別に活動している感がぬぐえないという感想が複数挙がってきています。また資金面や認知度の低さをどのようにしたら解決できるのか？というコメントも散見されました。

・内部のゴタゴタ事情、人間関係。

・相手との共有点を見つけて、そこから本題へとつなげていくことで、大きな可能性が広がっていくと思います。

・相手に合わせた進め方。

・人材不足。活動の幅を広げ、活動と活動をつなげる動きがあまり見られないこと。

・タテ割りになっていること（領域別？）視点。

・アンテナを張る。

・ボランティア＝無償という世間の見方は変わらないか。

・資金面や時間の余裕。

・市民活動やボランティア活動をすること、参加することの社会的意義。

・認知度の低さ。

今後の展望

中山修一さん（広島大学名誉教授）へのヒアリングより

これまでのプロジェクトの経緯をふりかえりながら、今後の展望に関してアドバイザー委員を代表して中山修一さんにお話しを伺いました。

ESD を含めた今後の展開について

（中山）1 年間プロジェクトを回してみて、課題がいろいろと出てきました。特にファシリテーター養成の仕組みをどのように作るのかを改めて考えてみたいです。

---この一年で全体の状況も変ってきているので、それを含めて発展させていくことが必要だと考えています。一定の評価をするには 3 年は必要だという認識です。今年度は主に平和という文脈でファシリテーターを養成してきましたが、今後さらに他分野に対応できるファシリテーターを養成する仕組みをつくることも視野に入れたいと考えています。基礎編ではファシリテーターの基本的なことについて学び、応用編では様々な団体が各論について実習していくというモデルもありえると考えています。

（中山）そうなるとより ESD 的な取り組みになりますね。ESD に関しては、今後 5 年間でさらに動いていくことになります。内閣官房も基本計画の改定に向けて動いています。こういった動きも鑑みながら私たちの活動も軌道修正していくことが望まれます。

学校教育と社会教育の役割分担について

---学校教育のコアの周辺のエリアに平和教育があり、その周辺のエリアは社会教育の分野と接しているという認識が学校側にあるのではないかという指摘もあります。

（中山）周辺のエリアにおけるプログラムを学校教育現場と社会教育現場の人が一緒になって作っていくことが望まれます。ただ学校教育のコアの周辺に平和教育があるという認識は問題だと考えています。広島市の教育振興基本計画によると「持続可能な社会づくりの担い手になる」ということが今後のテーマになると記述されています。ESD というテーマを追求すると、平和教育の概念を学校教育のコアに入れなければならないということです。この点はこれから議論していかなければならないことです。

---そうですね。今回のアドバイザー委員の皆さんとお話する中でも、平和教育は各主体によって様々な捉え方をされていることが分かりました。それらをすり合わせていく作業は重要だと思います。

（中山）平和教育においても、ある部分は学校教育のコアの部分に取り入れ、ある部分は周辺の部分に入れるといったことが必要になると思います。理想的には、広島発のコアの部分をつくり、それが他の地域でも使えるものにしたいと考えています。また、教員がファシリテーターの資質を持つという視点も重要だと考えています。様々な関係者とファシリテーターという役割の共通認識を作っていく作業も重要です。

若者・大学生への広がり

---10 代・20 代の指導者を育てることも課題となっています。

（中山）大学生は 4 年で関わりが終わってしまい、ノウハウの蓄積がされないというデメリットもありますが、継続して広報し人材が循環するような仕組みを作ればよいのではないかと考えています。個人にあたっていくのもよいですが、現状何らかの活動をしている団体を押さえていくこともひとつの手段として挙げられると思います。その方がコーディネーターとしてはマネジメントしやすいと思います。

---また､他の参加型の学びに関心を持っている NPO/NGO との協働も進めたいと考えています。特に若い人との連携をうまくしている団体と協働を進めることが必要だと考えています。大学生の視野を広げたいと考えている大学の広報担当などにも働き掛けていきたいと考えています。

（中山）NPO/NGO との関係を広げていき、指導者にどのような活動の選択肢があるのか最初に示すことは大切な視点ですね。指導者にとっても目標を持ちやすいと思います。

---様々なご意見ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

おわりに

はじめに本研究の実施にあたって多くの個人・団体のみなさんに関わっていたけたことを感謝いたします。研修会場の手配から出張講座のコーディネートまでお世話になりました広島平和記念資料館の山根副館長、山崎主幹、阪谷さん、沖田さんとの協力がなければ本研究は実施できませんでした。本当にありがとうございました。

急なお願いにも関わらず快く引き受け手頂いたアドバイザー委員の皆さん、そして参加者・ファシリテーターの皆さんから貴重なご意見を頂きました。次につなげていくために必要なフィードバックを本報告書にまとめました。皆さんのご意見の中で特に今後につなげていけそうなこととして以下の項目を挙げます。

・平和のみならず、地域づくりや環境といったさらに広い分野で活動することを想定したファシリテーターの養成
・より広い広報をするために様々な市民団体や社会教育施設との連携
・10 代 20 代の若い指導者を育てるための大学との連携
・平和教育、国際理解教育などのプログラム集の作成
・研修の受講者に修了証の発行

これらの項目は本研究が始まった当初にはなかった考えばかりで、関係者の皆さんと意見交換をした結果うまれた賜物です。地域人材（ファシリテーター）の養成という目標を掲げて、関心のある方々と協力できる所を探しあいながらプロジェクトを進めることによって、得られることが多分にあったことをうれしく思います。これからもご協力の程よろしくお願いします。

本報告書は、広島での社会教育における地域人材の養成および平和教育・人権教育の振興をテーマにした研究を取りまとめたものです。他地域においても、連携コーディネートの方法や人材養成の手法など応用できる部分があるかもしれません。是非ご意見などお聞かせ頂ければ幸いです。

（特定非営利活動法人これからの学びネットワーク理事　河野宏樹）

参考資料

・事前・中間・事後　社会教育に対する意識調査

・ふりかえりシート（第１回〜第３回）

・ふりかえりシート第４回

・アンケート　その２（市民参画について）

・ 達成点・課題シート（まとめ会）

・ 「ピースクリエイターになろう」の様子

・ ファシリテーター養成講座　資料　ジョハリの窓

・ ファシリテーター養成講座　資料　グループプロセス

・ ファシリテーター養成講座　資料　地球生活体験学習

“つくりだす平和”のためのファシリテーター養成講座

事前・中間・事後　社会教育に対する意識調査

氏名（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

この調査は、皆さんのこれまでの経験や皆さんの現在の状況を知って、今後の事業に活かすために実施します。テストではありませんので、気楽に正直に答えて下さい。（※氏名が公表されることはありません。本事業の目的以外には一切使用しません。）

１　あなた自身のことについて質問します。あてはまるところに○をつけてください。

（1）年齢　　１０代　・　２０代　・　30代　・　４０代　・　５０代　・　６０代以上

（２）これまで、平和教育を扱う事業や授業に参加したことがありますか？　ある　・　ない

（３）これまで、平和教育を扱う事業や授業を企画・運営したことがありますか？　ある　・　ない

２　以下の表現をもとに、あなた自身のことについてあてはまる数字を<u>左カッコ内</u>にご記入ください。

５：自信をもって実践している

４：まあまあ自信をもって実践している

３：自信はないが実践している

２：実践していないが、その必要性を知っている

１：必要性を知らなかった

また、以下の表現をもとに、<u>第１回から第４回までの研修および実習</u>を通じて学んだことについて

<u>右カッコ内</u>にご記入下さい。

４：よく学んだ

３：まあまあ学んだ

２：あまり学んでいない

１：全く学んでいない

（1）（　　　）（　　　）机や席、ホワイトボードの並べ方やファシリテーター・参加者の立ち位置を目的に応じて使い分けている。

（2）（　　　）（　　　）１人で考える、２人で話し合う、５人で話し合う、全体で話し合うなど、話題や時間配分によってグループの人数を機能的に変更している。

（３）（　　　）（　　　）全体で意見を共有するために板書（ホワイトボード、模造紙、スケッチブックなど）を活用している。

（４）（　　　）（　　　）学びの場の最初の場面での説明（オリエンテーション）において、ゴール設定、スケジュール、参加者の心構え、この場での約束事を確認している。

（５）（　　　）（　　　）学びの場のはじめの段階で、参加者同士、参加者とファシリテーターが、和やかにお互いのことが分かるような工夫、活動を実施している。

（６）（　　　）（　　　）ブレインストーミングのような意見をたくさん出すための手法を活用している。

（７）（　　　）（　　　）付せんや模造紙などを用いて意見を分類し、考えを整理・まとめる手法を活用している。

（８）（　　　）（　　　）参加者が考えるべきことを精査し、適切な「問い」を立てている。

（９）（　　　）（　　　）参加者が迷わないような、明確な作業指示を出している。

（１０）（　　　）（　　　）参加者が迷っていること、見落としていることに対して効果的な介入（直接話をする・図に書く・態度で示すなど）や指針を示している。

（１１）（　　　）（　　　）参加者を信頼し、考えることに対して十分に待っている。

（１２）（　　　）（　　　）決まった時間で成果がだせるように、時間配分している。

（１３）（　　　）（　　　）学びの場の最終段階で、全体の共有や参加者の気持ちを整理する時間を十分につくっている。

（１４）（　　　）（　　　）やる事と起こしたい事（行為と成果）の違いを意識し、今現場でやっている事や話している内容と、グループの中で何が起こっているか、どのような状態なのかを共に観察している。

（１５）（　　　）（　　　）ファシリテーターの人や場に対する姿勢や態度が、参加者に大きな影響を与えることを知っているので、姿勢や態度に気を配っている。

（１６）（　　　）（　　　）自分の中で起こっている「感覚」や「感情」に敏感に反応しようとしている。

（１７）（　　　）（　　　）活動が始まる前に活動内容を読み込み、目標に沿うための活動内容を想像している。

（１８）（　　　）（　　　）活動が始まる前に参加者の属性や様子を把握しようとしている。

（１９）（　　　）（　　　）活動が始まる前にできる限り場所の下見をし、当日段取よく活動できるよう心がけている。

（２０）（　　　）（　　　）なぜ自分が今の活動をしているのか、自分の根本思想に気づき整理して考えている。

ふりかえりシート（第１回〜第３回）

氏名

１）今回のワークショップを通じて、あなたが学んだことは。

２）今後さらに学びたいと思ったことは？

３）その他、気がついたこと、感じたことをメモしてください。

ふりかえりシート第４回

今日の講座を通じてのふりかえりを、次の文章を完成する形で行ってください。

□ 私が気づいたのは、

□ 私が学んだのは、

□ 私が驚いたのは、

□ 私がうれしかったのは、

□ 私ががっかりしたのは、

□ 私にとって必要だとわかったのは、

□ 私がこれから実行しようと決めたことは、

□その他、気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは、

社会教育による地域の教育力強化プロジェクト

アンケート　その２（市民参画について）

氏名

・現在の市民活動やボランティア活動に関わりについてあてはまるものに○をつけてください。

現在関わっている（　　）　過去に関わっていたことがある（　　）

これまで関わっていない（　　）

・第１回目が始まる前の、市民活動やボランティア活動における参加型学習（ワークショップ）やファシリテーションの取り組みに関して以下の当てはまる項目に○をつけてください。

関心がなかった（　　）

関心はあったが、積極的に情報や体験にふれたことがなかった（　　）

だいたいの情報は知っていたが体験したことがなかった（　　）

体験したことはあるが、指導をしたことがなかった（　　）

指導をしたことがある（　　）

・ あなたの市民活動やボランティア活動における現在の達成度（自己評価）に関してあてはまる数値に○をつけてください。

←低い　1　　2　　3　　4　　高い→

・ 市民活動やボランティア活動を行うにあたって大切だと感じる点があればご記入ください。

・市民活動やボランティア活動を行うにあたって課題だと感じる点があればご記入ください。

達成点・課題シート（まとめ会）

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

１）今年度のカリキュラムを通じて、あなたが達成したことは？

２）今年度のカリキュラムを通じて、あなたが課題だと思ったことは？

３）その他、気がついたこと、感じたことをメモしてください。

ワークショップの様子

※ベーシックコースの場合

オリエンテーション
これまでヒロシマで体験したことをあらためて整理し自分事として考えてみましょう。

最初のワーク
最近自分の周りで気になるニュースを４つ挙げてみました。

世論調査
「今の日本は平和ですか？」といったような質問を投げかけます。ロープを握る位置によりYESかNOか答えて下さい。

クロージング
ひとりひとり自分にとっての「平和」を書きとめ、お互いに共有します。

マッピング
新聞記事から読み取った情報から、どんなことが「平和」なのか模造紙にまとめていきます。

新聞ワーク
新聞を使って、現代社会における平和的なもの、平和的でないものを探ります。

特定非営利活動法人　これからの学びネットワーク

協働の場における“人とのかかわり”の意味
～ジョハリの窓～

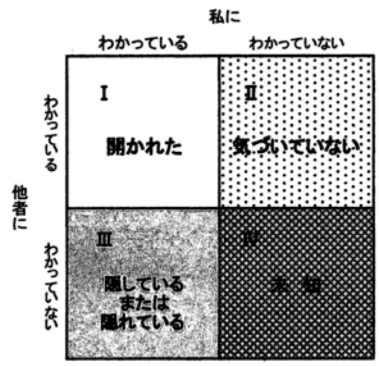


図1　ジョハリの窓

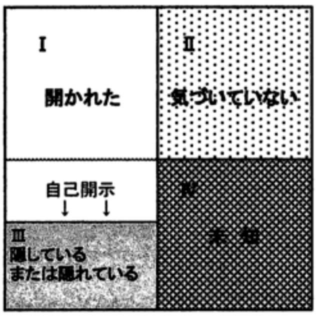


図2「ジョハリの窓」から見た自己開示

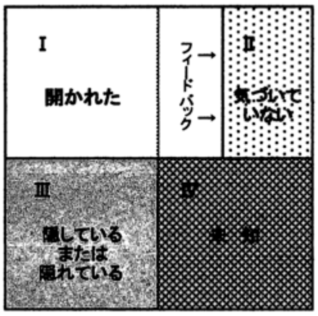


図3「ジョハリの窓」から見たフィードバック

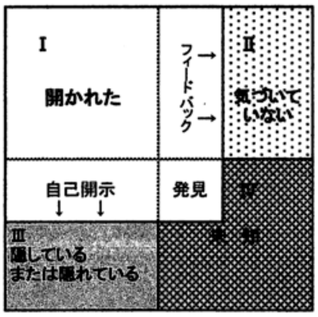


図4　未知の領域での発見

「ジョハリの窓」における変化	個　人	グループ・組織・社会
「開かれた領域」が広がる	・安心して素の自分で人とかかわれる ・自己認識し、自己肯定できる ・自己効力感を感じ、自信を持てる ・自尊感情が高まり、イキイキと行動できる	・組織が活性化する ・組織アイデンティティが確立される ・開かれた、創造的組織になれる
「発見」が起こる	・自分自身の考えが整理される ・自分の可能性や潜在能力に気づく ・新たな自分と出会い、人間的に成長する ・テーマの自分にとっての意味や価値をつかみ取る ・これまでの考え方の枠が広がる	・組織としての可能性や力を再認識する ・これまでにとらわれない新たな組織として再構築できる ・相乗効果により、これまでを超える成果を上げることができる
	人間関係における 気づき・学び・成長のメカニズム	参画と協働の場における やる気・創造の創出メカニズム

Joseph Luft and Harrington Ingram(1969)に加筆

“つくりだす平和”のためのファシリテーター養成講座（2010.10.23−24）／川島憲志

グループ・プロセス

私たちが他の人たちと関わりあって、活動したり仕事をしている時、そこには大きく次の２つの側面があります。

1．コンテント（content）
グループのメンバーが討議したり、話していることや行っている作業など

2．グループ・プロセス（group process）
グループのメンバーが関わりあうことによって、その時々にメンバー人ひとりやメンバー間に起こっていること

そして、この２つが相互に影響し合って、活動や仕事は進んでいきます。特にグループ・プロセスのあり様がコンテントのあり様に大きな影響を与えており、結果的に活動や仕事の成果、メンバーのやりがいや満足度を大きく左右しています。したがって、グループがその目的に沿って効果的に活動や仕事を進めていくためには、コンテントの下にあって見えにくいグループ・プロセスに目を向け、そこで起こっていることに関わっていくことが必要となります。グループ・プロセスは、以下のような視点でグループを観ることで得られるデータ（情報）から推察します。

グループ・プロセスをとらえる１０の視点

1．グループの機能

□グループの２つの機能（課題達成機能と集団形成維持機能）のバランスはどうなっているか？
□機能バランスを作り出しているメンバーの役割の取り方はどうか？
□機能バランスの仕事やメンバーへの影響はどうか

【グループの機能】
人々が集い、グループ（組織）として活動（仕事）を進めていく時、そこには大きく以下の２つの機能があり、そのバランスが仕事の成果やメンバーの満足度に大きく影響しています。

①課題達成機能（performance function）	②集団形成維持機能（maintenance function）
グループ（組織）が生産性を高めようとする働き	仕事を共に進めていく仲間としてふさわしい関係をつくり、維持しようとする働き

2．メンバーの様子

□メンバーの参加の具合はどうか？
□メンバー相互の受容の度合いや距離はどうか？
□メンバーの感情や気持ちのあり様やグループ内での扱いはどうか？

3. グループ内のコミュニケーション

□発言の質や量、偏り具合や頻度はどうか？
□メンバー相互の問答やフィードバックの具合はどうか？
□感情レベルのコミュニケーションはどうか？

4. グループ内の影響関係（リーダーシップ）・役割分担

□メンバー相互の影響関係はどうなっているか？
□影響力のスタイルはどうなっているか？
□メンバーの役割の取り方はどうなっているか？

5. 意志決定

□意志決定のスタイルはどうなっているか？
□意志決定の仕方の了解の具合はどうか？
□意志決定のスタイルと仕事の成果、メンバーの満足度との関係はどうか？

6. グループの目標

□グループの目標の明確度はどうか？
□メンバーの目標に対する理解度はどうか？
□グループの目標の共有の度合いはどうか？

7. 時間管理

□時間管理の方法はどうなっているか？
□時間管理の役割はどうなっているか？
□時間管理の仕事やメンバーへの影響はどうか？

8. 仕事の手順化

□手順の決め方はどうなっているか？
□決められた手順の変更はどうなっているか？
□決められた手順の共有の度合いはどうか？

9. グループの規範

□明示された決まりや約束事はどうなっているか？
□暗黙の決まりや約束事はどうなっているか？
□グループの規範の作られる過程はどうか？

１０. グループの雰囲気

□グループ全体についての印象はどうか？
□グループの雰囲気の作られ方はどうか？
□グループの雰囲気の仕事やメンバーへの影響はどうか？

（参考：Creative O.D. Vol. 1 ,p365-367,1982,プレスタイム社）

地球生活体験学習とは

地球上に住む全ての人々にとって平和で絶対的貧困のない住みやすい世界を創造するために、地球上に住む全ての人間のあるべきライフスタイルを考えることがねらいです。地球に住む一人一人の「豊かな生き方」を共に考え、世界平和に貢献することを目的としています。

社団法人　青年海外協力協会（ＪＯＣＡ（ジョカ））は、海外ボランティア経験者を中心とした集団として、その体験を社会に還元する取り組みをしています。

教材の特徴

地球生活体験学習教材は、青年海外協力隊員[※注]が開発途上国の活動現場で実際に体験した様々なエピソードに基づいて作成しています。本教材には現地の人々の生き方や知恵が盛り込まれています。それらは世界の現実を知り、「地球市民としての自分」や「世界の中の日本」を見つめなおすきっかけにつながります。

受講者の感性と人間性が最大限にひらかれるように参加型学習を取り入れており、考える力を育てることも目的の１つとしています。

（※注）　青年海外協力隊は、独立行政法人国際協力機構（ＪＩＣＡ（ジャイカ））が実施する国際協力ボランティア事業の１つです。活動期間は原則２年、多様な文化の中で現地の人々と生活を共にしながら、地域社会の発展や人づくりに携わっています。

内容

- ねらい等
- 進め方
- 写真の説明文
- ワークシート
- 世界地図（ルーマニア中心の白地図）
- 実践例＆体験者の声

「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究　報告書

2011 年 3 月　発行

発行　特定非営利活動法人これからの学びネットワーク

〒731-0135　広島市安佐南区長東 5 丁目 19 番 16-204 号

WEB: http://koremana.net/

この報告書は平成 22 年度文部科学省「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究の補助を受けて作成しました